

## 第20期 第4回町田市立図書館協議会当日配布資料一覧

### 当日配布資料

【当日資料】【図書館】第7期町田市生涯学習審議会委員の推薦について（依頼）

【当日資料】図書館利用者アンケート（総合満足度抜粋）

### 協議会委員事前送付資料

【資料0】第20期 4第回町田市立図書館協議会次第

【資料1】若者の図書館利用の促進Ⅱ～自習スペースについて～

【資料2】第五次町田市子ども読書活動推進計画図書館分取組一覧（案）

【資料3-1】【委員長確認最終コメント案入り】2022年度事業実績報告シート

【資料3-2】2022年度図書館外部評価に関する報告

【資料4-1】図書館からの報告事項

【資料4-2】町田市教育プラン24-28（原案）のパブリックコメント実施結果について

【資料4-3】行政報告\_鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について

【資料4-4】POP コンテスト図書館協議会賞用の投票について（案）

【資料5】講演会\_子どもと一緒に英語絵本を読もう！

2024年1月12日

町田市立図書館協議会委員各位

町田市立図書館長 中嶋 真

## 第20期第4回町田市立図書館協議会定例会の資料の送付について

日頃より、町田市立図書館の業務にご協力をいただき、御礼申し上げます。

さて、2024年1月26日（金）に開催される、第20期第4回町田市立図書館協議会定例会の資料を送付させていただきます。

事前に資料をご確認いただき、ご参加いただけますよう、よろしく願いいたします。

【担当】町田市立中央図書館総務係  
柳下・佐藤・鈴木  
TEL 042(728)8220

## 第20期 第4回町田市立図書館協議会次第

■日 時:2024年1月26日(金) 14:00~16:00

■場 所:町田市立中央図書館 6階 中集会室

■次 第:

1. 若者の図書館利用の促進～自習スペースについて～【資料1】
2. 第五次町田市子ども読書活動推進計画図書館分取組一覧(案)【資料2】
3. 図書館評価について【資料3】
4. 図書館からの報告【資料4】
5. その他

# 資料 1

## 若者の図書館利用の促進Ⅱ～自習スペースについて～

### 1 現在の町田市立図書館のルールと運用

若者の自習<sup>\*</sup>スペースについては、さまざまなところから話題や要望が出てくる状況にありますが、町田市立図書館としては、自習のルールと運用は以下のとおりで行っています。

※ここでの自習は、図書館資料を利用せず、持ち込みで勉強することとします。

#### (1) 基本的なルール

- ①図書館の座席は図書館の資料を閲覧するために設置。
- ②館内の座席での自習は禁止。
- ③例外として読書室では自習も可。
- ④条例や規則、内規での明文規定はない。

#### (2) 自習での利用に関する運用

- ①座席で明らかに自習している場合は注意をする。
- ②中央図書館とさるびあ図書館（読書室のある館）では、座席で明らかに自習している場合は読書室を案内。

### 2 課題

- ・座席の設置状況は、各館の規模や空きスペースによって異なっている。
- ・座席の増設要望があっても、空いているスペースがないため、増やすことは難しい。
- ・閲覧か自習をしているかの判断が難しい。

### 3 検討

- (1) 「1 現在の町田市立図書館のルールと運用」について、率直なご感想をお願いします。
- (2) 「2 課題」を踏まえて、今後の座席活用の方向性についてご意見・ご提案をお願いします。

## 第五次町田市子ども読書活動推進計画図書館分取組一覧(案)

新規取組・・・		対象 … 乳:乳児 幼:幼児 小:小学生 中:中学生～高校生世代 保:保護者 他:その他 先生や施設職員・市職員・ボランティアなどを含む					
基本目標	取組グループ	取組名	対象	取組の内容	今後の方向性		
基本目標Ⅰ	子どもが本と出会うきっかけ作り	おはなし会の実施	乳 幼 小 保	乳幼児向けから小学生低学年向けまで、年齢にあったおはなし会を開催し、子どもや保護者に本の楽しさを味わってもらいます。子どもが本に親しみ、本に興味を持ってもらえるように読書の機会を提供します。	絵本の読み聞かせや紙芝居、語りを聞いてもらい、親子で楽しく、リラックスして過ごせるような時間を提供します。読書に興味を持ってもらえるように、おすすめ本を紹介したり、年齢に応じたプログラムを用意していきます。		
	子ども読書の周知活動	ブックトークの実施	児童・生徒へのブックトーク	幼 小 中	学校の読書活動の一環として、図書館員が学校へ出向き、読書の楽しさを伝えます。また、図書館の紹介や利用案内も行っています。	学校からの依頼に応えられるように、シナリオやスキルを蓄積、共有し、今後も継続してブックトークを行えるようにしていきます。	
		ブックリストの作成・配布	おすすめブックリスト	乳 幼 小 中 保 他	図書館で購入した児童図書の中から、図書館員が選んだおすすめ本を集めて、年代別のリーフレットを作成・配布しています。それぞれにおすすめ本の簡単な解説を掲載しています。	子どもにどんな本を選んであげたらいいのか困っている保護者の方や、何か面白い本がないか探している子どもたちのために、今後も継続して作成・配布していきます。また、配布効果を検証し、配布先や配布方法を検討していきます。	
		図書館のイベント・講座		小 中	子ども・若者が読書や図書館に興味を持つきっかけとなるような、イベント・講座を実施します。	人気がある「一日図書館員」のような職場体験イベント以外にも、参加者が増えるように周知等を行っていきます。	
		若者の参画イベント		中	若者が読書や図書館に興味を持つきっかけとなるように、同世代の若者自身が、自分たちが楽しいと思うイベントの企画・運営を行います。	若者自身が計画し、運営していくことができるようにサポートを行っていきます。	
基本目標Ⅱ	いつでも身近なところに本がある環境作り	本の充実	図書館	乳 幼 小 中 保 他	子どもたちに読書を楽しんでもらえるように、構成を検討しながら本の充実を行っています。子どもたちの興味を引く本から、調べ学習に対応できるような本まで、さまざまなニーズに幅広く対応できるように、実際に現物を見てから発注を行います。	図書館でも「えいごのまちだ」に貢献できるように、英語絵本・児童書を充実させていきます。また、多様な子どもたちの読書環境を整えるため、「やさしい日本語」の本についても検討を行っていきます。	
		学校図書館の充実	学校図書館支援貸出	小 中 他	さるびあ図書館を拠点に、学校図書館への支援貸出を行っています。学校での調べ学習をサポートするため、図書館で必要に合わせた本を選書し、配本しています。	テーマ別の貸出セットなどを利用して、スムーズかつ簡易に支援貸出ができるようにします。	
		情報の発信	図書館ホームページ等での情報発信		小 中 保 他	子どもたちの読書のきっかけや、本との出会いになるように、イベント（おはなし会など）の情報や、おすすめ本リスト等を、図書館ホームページ、まちだ子育てサイト、X（旧Twitter）でお知らせしています。また、図書館ホームページでは、本と出会う場所や団体の情報をまとめた「町田市読書MAP」、学校の先生に向けた「市内小・中学校の先生方へ」など、幅広く情報を掲載しています。	図書館ホームページやまちだ子育てサイトで、分かりやすく情報を発信するため、見やすいページ作りを目指していきます。
			「みんなが読める本」の周知活動		幼 小 中 保 他	障がいがあっても読めるさまざまな「本」があることを、本人だけではなく周りの人たちにも知ってもらえるように、周知活動を行います。情報を必要としている子どもにつながるよう、周知を行っていきます。	紙の本だけではなく、点字や音声などの本や読みやすく工夫されている本などがあることを、イベントや研修などで周知を行っていきます。
		子どもの読書に関わる人の育成と支援	ボランティア養成講座	市民向け絵本の読み聞かせ講座	保 他	保育園や小学校、学童クラブで読み聞かせを行っている保護者やボランティアを対象に、絵本の読み聞かせ講座を開催し、本の選び方や読み聞かせ方法の技術向上を目指します。	地域で活動をしている方に対して、技術や意欲の向上につながるように講座を開催します。また、悩みや相談にも応じていきます。講座を開催することで、図書館員のスキルの向上にもつなげていきます。
おはなし会ボランティアの養成講座		保 他	新規ボランティアを養成するため、おはなし会ボランティア養成講座を開催し、地域で活躍する人材を育てます。	乳幼児向けおはなし会ボランティア、語り手ボランティアの養成に加え、企画運営ができるボランティアを育成します。			

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

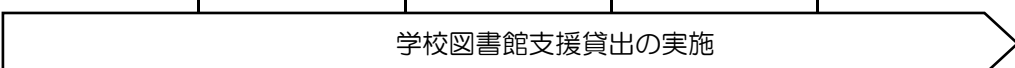
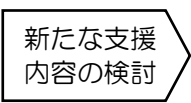
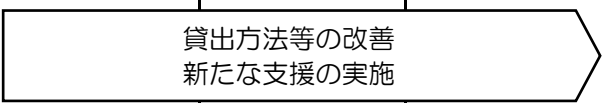
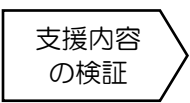
## ＜2022年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2022年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催しました。</li> <li>・町田市子ども読書活動推進計画推進会議は、委員による事業報告の事前確認により、以前よりも効率よく会議を進めることができました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語児童書の充実に合わせてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約6,800冊となり、目標値を大きく上回りました。</li> <li>・「英語多読コーナー」を、2023年2月10日に3館（さるびあ図書館、金森図書館、堺図書館）に新たに設置しました。これにより、既存の3館（中央図書館、鶴川駅前図書館、忠生図書館）とあわせて予定していた6館に設置することができました。</li> <li>・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け英語絵本の読み聞かせ講演会、ボランティア・職員向け英語絵本読み聞かせ研修会、10代向け英語多読講演会を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、現状の課題や問題を分析し、今後の方向性を検討する必要があります。</li> <li>・読み聞かせでの利用や英語多読初心者に適した、外国語の絵本・児童書を充実させる必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、第四次町田市子ども読書活動推進計画の推進を図るとともに、第五次計画の策定について検討します。</li> <li>・読み聞かせや英語多読で使用できるように、電子書籍を含め外国語の絵本・児童書資料を引続き充実させます。</li> </ul>

## &lt;外部評価&gt;

外部評価者のコメント	<p>【評価】</p> <p>活動指標①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や若者の読書離れが進んでいる中、一定の企画推進が行われています。今後もこれらを継続してもらいたいと思います。</li> <li>・「推進会議」を目標回数開催したことは評価できますが、昨年度も指摘があったとおり、どのような内容が討議されているのか、その年度ごとに中心議題となった内容についても触れるべきかと思います。</li> </ul> <p>活動指標②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税の活用により蔵書目標を上回ったことは高く評価できます。</li> <li>・英語多読活動については引き続き継続し、「えいごのまちだ」の実現を図ってほしいです。「英語多読コーナー」の増設により、利用状況の上昇が確認され、利用者のニーズに 대응できていると判断できます。音声付き電子書籍の導入なども「多聴多読」の目的のためには有効な資料であり、今後の動向に期待が持てます。</li> <li>・多読に関する講演会はほとんど定員が埋まっています。このことは図書館の利用者に多読が認知、周知されていると評価できます。</li> </ul> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えいごのまちだ」推進に伴い、日常生活に英語の浸透を促すため、国際交流センターとの連携により、市内施設の多くの表記を英語併用にするなど、一層の努力を期待します。英語と事物（絵）のカードなどを配布し、学校や生涯学習施設で活用できると良いと思います。</li> <li>・多読に関する講演会には50代以上の参加者が多いようですが、「子ども読書活動の推進」の中の活動としていることを考えると、子どもにもっと参加してほしいと思います。そのためにも、今以上に子どもに認知してもらえるように工夫をしていく必要があると思います。</li> <li>・「多聴多読」は一つの学習方法であり、他の観点からの資料の収集も視野に入れるべきかと考えます。</li> <li>・英語のみならず多言語理解・多文化理解について一層力をいれてほしいです。目標にも「外国語」とあり、この評価でも例年指摘されているとおり、英語ばかりでなく「町田に住む母国語が日本語でない人たち」に向けた多言語への取組みも当然求められるべきものかと思います。</li> </ul>
------------	--

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①学校図書館支援貸出利用校数		35校	42校	
	②学校図書館支援貸出数		3,768冊	4,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

## ＜2022年度の事業実績＞

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援貸出は26校に実施しました。</li> <li>・学校図書館への連携サービス改善のため、公立小・中学校へ学校図書館支援に関するアンケート調査を実施しました。また、町田市小学校教育研究会図書館部の教員に対して、学校図書館に関するヒアリングを実施しました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援貸出の冊数は、2,884冊でした。</li> <li>・2022年10月から開始した電子書籍サービスを学校でも活用できるように検討しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館と連携をとりながら、学校図書館支援に関するサービスの改善に努める必要があります。</li> <li>・アンケート調査やヒアリングから、貸出依頼時に選書などに時間がかかり、利用しにくいことがわかりました。</li> <li>・電子書籍サービスを学校で活用する場合の実施方法を検討する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援に関するアンケート調査の結果から、学校図書館支援貸出に関する改善策を検討していきます。</li> <li>・引き続き、学校図書館支援貸出、研修会の協力、団体貸出資料の配本サービス等を行い、学校図書館との支援や連携に努めていきます。</li> </ul>



## &lt;外部評価&gt;

外部評価者の コメント	<p>【評価】</p> <p>活動指標①</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校図書館支援貸出が26校と、昨年から2校減少という結果になりました。学校図書館との連携強化という観点から、貸出校数を増加させていく必要があると考えます。</li><li>・学校図書館支援に関するアンケート調査の実施及び小教研図書館部の教員に対するヒアリングにより、現場の声や要望が届いたのは良いことと考えます。今後はこれらの要望に沿うための方策を考え実施していくことが期待されます。</li></ul> <p>活動指標②</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校図書館への支援貸出冊数は前年度比300冊増となり、増加傾向にあることは成果だと考えます。ただ、年度目標冊数からは遠く及ばないので、目標値に少しでも近づけるための施策を考え、実施する必要があると考えます。</li><li>・電子書籍サービスの学校活用については一定の効果や需要が見込まれる結果となったので、今後は電子書籍数を増やし、学習活動での利活用に十分耐えうる書籍の質と量の確保をお願いしたいと考えます。</li></ul>
----------------	--

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進

文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件		
	②SNS発信数	219回	800回		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習部所管施設のほか、子どもセンターや小中学校、高校、大学、専門学校、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィス、町田国際交流センターなど他施設との連携・共催事業を、自由民権資料館で7件、図書館で3件、文学館で14件、生涯学習センターで28件の合計52件実施し、施設の相互PRに務めました。</li> <li>図書館では、移動図書館車がシバヒロや芹ヶ谷公園のイベント、保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>Twitterによる情報発信を自由民権資料館で56回、図書館で108回、文学館で768回、生涯学習センターで78回、文学館ではInstagramによる情報発信も50回実施し、合計1,060回のSNSによる情報発信を行いました。</li> <li>図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2022年度には2021年度から148人増加し、1,478人になりました。</li> <li>生涯学習センターでは、学生活動報告会「ガクマチEXPO」のPRを、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィスと連携して行い、相乗効果により生涯学習センター公式Twitterに10,000件を超えるアクセスがありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の特徴を知ってもらい、未利用者に向けた事業や施設のPRが必要です。</li> <li>Twitter以外のInstagramなどのSNSの効果的な活用方法の研究が必要です。</li> <li>連携したPRのためには他施設や関係する機関との情報共有が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の愛称募集や新規講座の実施など、施設の魅力向上のための取組を進めます。</li> <li>SNSとHPの連動やTwitter以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。</li> <li>2022年度に連携した他施設等を中心に早めに情報共有を図り、事業の実現を進めます。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

- ・他施設との共催事業が3件と少ないようですが、移動図書館をフルに活用し、その存在を市民に伝えることで利用促進を図ったことが評価できます。
- ・全体に移動図書館を中核として、アウトリーチの工夫がうまく機能していると思いますので、今後とも一層の充実を期待します。
- ・SNSでの情報発信を怠らず、それがフォロワーやアクセス数増加につながっているということを考えると、とても意義のある活動だと思しますので、これからも続けてほしいです。
- ・X（旧Twitter）のフォロワーが増加してはいるものの、SNSとしてこの数字はいかななものかと思わざるをえません。そのため、連携の必要があると考えます。

【関連事項提言等】

- ・X（旧Twitter）での情報発信は、行事の告知などが多いようですが、特集コーナーといった「図書館の日常」のようなものを他市の図書館のように発信してみてもどうでしょうか。
- ・SNS利用者が若年層に多いことから、中高生に人気がある図書の発信をSNSで行うといった、ターゲットを絞った発信も考えられるのではないのでしょうか。
- ・SNSの発信も必要ですが、紙媒体での情報発信も滞ることなく進め、どちらかに偏ることがないようにしてほしいと思います。
- ・移動図書館は図書館の強みです。大いに利用し、動画配信などを行うことで子どもの保護者にアピールができるはずです。利用者に直接接することで、SNSでただ情報発信をするよりも、情報発信のヒントにつながると思います。フィードバックを丁寧に行ってください。
- ・市民の協働や企業とのコラボなど、これまでにない方向も検討してほしいです。

<b>■取組2-6 読書普及事業の充実</b>	図書館
-------------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われてい ます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館 に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化しま す。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、 中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラ リー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録 につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の 実施・ 検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

\*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・  
文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した483名へミニプレゼント を渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しまし た。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は 273組682名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員に なってみよう！」を実施し、14名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一 日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥青少年映画会”Yシネ マ”を実施し、10代の参加は9名（総観客数は33名）でした。⑦中高生向け回遊型 謎解きイベント「まちクエ2022*」を実施し、41名の参加がありました。⑧MSP （町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみちゃ う!？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイベントを行いま した。⑨「ひとことPOPコンテスト2022」を実施し、書店や地域文庫に周知や審査 に協力してもらうことができました。作品は、90名からの応募があり、最優秀賞1 名、優秀賞2名、また、応募作品全体から図書館長特別賞が2名選ばれました。⑩ 「英語多読で推し活がはかどります!」は7名の参加があり、趣味を楽しむための方 法としての英語多読講演会を行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対 象に、「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、887点の応募があり ました。
課題	・今後も中高生世代が読書や図書館に興味を持つよう、若者の意見を聞く必要があり ます。
今後の取組の 方向性	・ボードゲーム大会を中心に、MSPやさがまち学生Clubなどからの提案を具現化す るため、若者の参画を進めていきます。 ・今後も内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

\*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。  
\*まちクエ2022：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的  
な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

- ・年度目標の4事業を上回る11事業の実施に、読書不普及に向けて大変努力されていることが伺われます。毎年度の課題でもあった効果的なPR方法、当事者であるYA世代の意見聴取や参画の取組、学校・地域文庫・書店との連系事業、など前年度の反省を活かしたことの効果が上がっていることは高く評価できます。
- ・小学生以下の子どもの読書のきっかけ作り、小学生、YA世代対象の図書館の仕事体験、中高生を対象とした興味をひきやすいイベント、子どもたちの自由な表現の場等の数々の事業は図書館の存在感を高め利用促進につながる意義ある事業です。参加者の感想などを見ると概ねよい評価となっています。参加者の声を取り入れ、PR方法を検討するなどして、今後も気軽に図書館を利用できるよう検討してください。
- ・「わいわいキャレル」の利用が大幅に増加したのはリピーターだけでなく、新規利用者も増加したためとのこと。利用することでその良さが実感できるのであれば、利用者の声を反映する仕組みや新たなPR方法（全校配布等）、平日の開催、席数の増加、音が影響しない配慮等を検討し更なる利用促進を期待します。

【関連事項提言等】

- ・事業により定員がすぐに埋まるもの、割れるものとあり、事業数と内容の検証が必要と感じます。
- ・学校に行かない選択をしている子どもたちにも情報が届くよう、居場所機能のある活動団体との連携も視野に入れた検討を期待します。
- ・小中高生が読書や図書館の魅力を話せる「語り部」となれるような企画を開催出来ると広がりが出てくると思います。

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<p>以下の5事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールにおいて、講座「図書館を活用した調べ学習」「著作権/出典・引用の扱い」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。</li> <li>・鶴川駅前、金森、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。</li> <li>・デジタルデバイス解消事業として、はじめてのスマホ体験（10月～11月）、スマートフォン・タブレット個別相談会（11月～3月）、セキュリティ講演会（11月）を実施しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。</li> <li>・スマートフォン・タブレット個別相談会において、利用率が全体で52%に留まってしまったため、周知方法を含め、検討していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集展示について、情報を常に提供できる方法を検討します。</li> <li>・スマートフォン・タブレット個別相談会について、周知方法・募集方法を見直し、利用率の向上を目指します。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

- ・シニア世代向けに、住み慣れた地域で生き生きと健康に暮らせるための取組として、前年度より2事業増やし5事業実施したことは高く評価します。また、生涯学習センターとの共催での開催というコラボの事業展開は欠かせない要素であり評価します。リアルとデジタルの両面の視点もバランス良く盛り込まれている事業内容は、間口が広く良いと思われま。
- ・デジタルデバイド解消事業では申込者が定員を超えるなど多くの方が参加し、ニーズの高さが伺えます。それに応えるべく事業数と内容を増やしていることは評価できます。
- ・例年行われている「ことぶき大学まちだ探・探ゼミナール」は、担当職員も慣れてきて運営、進行共にスムーズで、市民の評価が高い取組といえます。

【関連事項提言等】

- ・スマホの体験会はシニアには人気があるように聞いています。講習の内容も図書館の業務と関連させることにより効果を発揮できるように思います。
- ・デジタルデバイド解消事業については、今後事業数や開催回数を増やすなど、更なる拡大を期待したいです。しかし、高齢者の中にはそもそも必要性を感じていない方もいるので、使い方の講座だけではなく、「コミュニケーション不全による孤立、災害、非常事態時に情報が即座に伝わらない、詐欺や事件に巻き込まれやすい」等のリスクを知らせる等の普及啓発の取組も併せて検討してほしいです。
- ・大人のためのおはなし会は、視力の問題等で活字が読みにくい高齢者が書物に触れるいい機会だと思うので、開催館、回数の増加をぜひ検討してほしいです。



<b>■取組2-8 障がい者サービスの充実</b>	図書館
---------------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数			1事業	3事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

\*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディアDAISYについて、上映会を開催し33名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。</li> <li>・ボランティア養成講座「初めての点訳ボランティア」を開催し、18名の参加がありました。</li> <li>・リーディングトラッカーの貸出を含め、実施した事業の合計は3事業となりました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書バリアフリーを進めるため、カセットテープによるサービスから転換する方策としてデイジー再生機器*の貸出サービスについて検討する必要があります。</li> <li>・引き続きボランティアの養成を支援するような取り組みが必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイジー再生機器の貸出サービスについて、情報収集するとともに実施に向けた検討を行います。</li> <li>・関連団体等とも協力して、ボランティア養成を進めます。</li> </ul>

\*テキストDAISY：音声データの入っていないパソコンで読む本のこと。再生機等の音声合成機能でテキストを読み上げさせて聞くことができる。



<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・マルチメディアDAISYの上映会は、利用促進の面では、効果的だと思います。回数を増やし、学校、支援施設、団体等にも出張して広く周知することを期待します。また、図書館のホームページからは、検索しにくいので、工夫が必要です。</li><li>・ボランティア養成講座「初めての点訳ボランティア」では、定員を上回る申し込みがあったとのことだったが弾力的に受け入れ、丁寧な対応をとれたことは高く評価します。アンケートの実施と結果が詳細にまとめてあり、参考資料としての価値があります。</li></ul> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今後の提案については、視覚障がい者等へ貸出し、相互貸借、肢体不自由利用者へ宅配貸出等の利用促進への対策を検討してください。精神、発達障害の方へのサービスへの視点が欠けているので検討が必要です。全国的にボランティアの高齢化が進むなか、ボランティアを人手不足の補完ととらえるのか、生涯学習の視点でとらえるのかの区別は重要です。必要とされる事業であるならば、有償、無償の検討も必要だと思われます。</li><li>・まとめに、障がい者へのサービスとして図書館ができること、また、障がい者が図書館に求めること、今後何ができるのかを検討していくこと、が必要であると考えます。障がいのある方がどのように図書館を利用したいのかりサーチして今後につなげてほしいです。</li></ul>
------------------------	---

<b>■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実</b>	図書館
---------------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらおうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を67回実施しました（中央図書館23回、さるびあ図書館3回、鶴川図書館1回、金森図書館1回、木曽山崎図書館1回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館32回、忠生図書館2回）。</li> <li>・全館共通テーマに関連した特集コーナーなどの実施を行いました。</li> <li>・特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署からの特集コーナーの申込が多数となった場合等に、選定する方法を明確にする必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署からの特集コーナーの申込について、様式の改定を含め、より分かりやすい方法を検討します。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

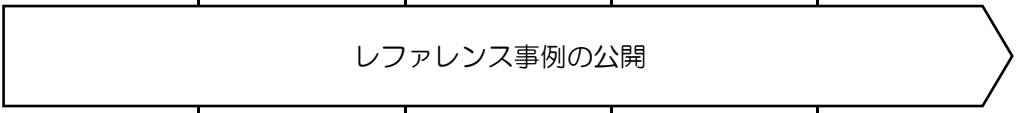
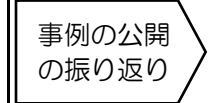
【評価】

- ・他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を67回実施したことは、図書館の有用性が認知されており、喜ぶべきことです。本来業務の充実であると評価できます。
- ・活動の実施回数が多くなっています。特集コーナーについて、図書館の利用者は、お目当ての図書があって来館する方もいれば、何か面白い図書はないかと図書を探しに来る方もいます。図書館側が様々なジャンルの特集を組むことで、利用者も図書を選びやすくなります。図書館側も利用者を増やすことにつながります。
- ・全体に、町田市の地域・歴史・文化・人など、地域のリソースを活用した情報発信や情報提供がうまく機能していると評価します。

【関連事項提言等】

- ・「本の特集コーナー」について、テーマにより地域館にも広げることで「市の施策」を市内の隅々に伝えることができるようになると思います。
- ・「課題」の申込み多数の場合の判断は、施策面から判断する管理職と、専門知識を持った人との合議で選別すればよいでしょう。「基準」を設けるのは難しいため、お断りする場合は合議の結果をきちんと説明できればよいと思います。
- ・特集を知らせるポップにもっと工夫をこらしたいところです。場合によってはポップ込みで特集の受け入れを考慮しても良いのではないのでしょうか。
- ・「どの本を読もうか」と迷う利用者も多いでしょう。「福袋」が好評であることから図書館から本を薦められることを期待する利用者もいると分かります。せっかく特集で集めたのだから、これらをリスト化し、HPに分かりやすく掲載してはどうでしょうか。SNSの発信の仕方にも関連しますが、特集の面出し写真を外部評価者の意見を添えてリストに掲載すると図書館利用の促進にもつながるでしょう。
- ・近隣自治体とのコラボや相互情報提供・相互情報発信ができるとなお良いと思います。
- ・中央図書館が生涯学習センターとともに、情報の提供機関として、生涯学習施設の取組みやイベントなどの総合的な提供窓口になることも期待します。

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
----------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	レファレンス事例の公開件数		162件	250件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス事例をインターネットで21件公開し、公開件数は延べ279件になりました。</li> <li>・国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を20件公開しました。</li> <li>・レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。</li> <li>・パスファインダー「ビジネス編」の改訂を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例の充実が必要です。</li> <li>・レファレンスサービスを身近に感じてもらえるような取組が必要です。</li> <li>・「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。</li> <li>・レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。</li> <li>・「レファレンス通信」やイベント等を通じて、利用者に身近に感じてもらえるような工夫を行います。</li> <li>・「パスファインダー」の改訂を行います。</li> <li>・レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

・前年度とほぼ変わらない取組状況、パスファインダーの改訂等、一定程度目標を達成し、地道に継続していることは理解し評価できます。ただ、毎年同じ課題では改善に向けて努力していることは読み取れません。それぞれの課題に対しても方策を示すべきと考えます。

・昨今、ICTがどの家庭でも標準装備となり、レファレンスサービスの受付件数が減ることが余儀なくされている中、目標値を越えたことは評価できます。レファレンス通信にも興味深い事例が掲載されていて面白いです。しかし、年2回の発行や地域館各館や生涯学習センター等の庁内関係課、市内の高等学校への送付のみで、部数は1回あたり300部とはあまりにも少なく、効果的ではないと感じます。対策を検討してください。

・レファレンスサービスは断片的な情報から欲しい情報にたどり着く等、担当職員の高度な技術が利用者と情報を結びつける図書館の大切な機能です。今後も人材育成についても更なる努力を期待します。

【関連事項提言等】

・地域密着で町田の資料を中心にレファレンス事例を公開していくことは、良い取組だと感じます。今後を期待します。

・福井県立図書館のように、「覚え違いタイトル集」などのように、何か面白いコンテンツを公開するなどして、もっと利用者の目に留まる工夫を期待します。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標 (指標①)	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標 (指標②)	30人	30人	60人	60人	90人

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を2回、「応用編」を1回、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等を4回開催し、計7回開催しました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に25人、「応用編」に13人、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等に45人、計83人の参加がありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に学校や学童クラブで活動している方に向けて行う講座については、より広範囲の市民に周知できるよう案内の方法を検討する必要があります。</li> <li>・図書館のおはなし会で活動しているボランティアに向けて行う講座に関しては、参加者を増やすために講座の内容及び案内の方法を検討する必要があります。</li> <li>・地域で活動するボランティアを増やしていくために、新規にボランティアを養成する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各館の担当者と打合せを行い、図書館としてより効果的に実施する方法を検討します。</li> <li>・ボランティアに対して、新たな活躍の場の創出や技術の維持向上を図るための支援手法を検討します。</li> </ul>

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・年度目標に対して開催回数と参加人数ともに目標を達成している状況は、取組が軌道に乗っている証で評価できます。また、講習会が平日開催ということでシニア層や子育て世代のボランティアさんが参加しやすい設定になっていることも良いと思います。</li><li>・地域で活動するボランティアについては、人材バンクとしての図書館の役割は大事です。また、学校における読み聞かせでも、担当していた人材の高齢化が進み、保護者の協力を得ている状況もあります。活用したい人材を手配したいときに、図書館へ連絡すれば人材の情報が得られるとよいと思います。</li><li>・2022年度もコロナ禍で活躍の場が確保できないという事情により「おはなし会ボランティア養成講座」は中止となりましたが、実際に読み聞かせに関わる保護者や図書館で働いているボランティアを対象とした、技術の向上や体験する講座を行い、モチベーション維持を図ったことは評価できます。</li><li>・前年度の取組の方向性として「図書館全館でどのように実施するのが有効か検討する」とありますが、開催場所を中央図書館に集約したことが影響しているのか検証が必要と考えます。</li></ul> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティア活動の未経験者に対して、おはなし会の存在や担い手の仕事の魅力を周知する取組を行い、参加機会を増やす施策を希望します。</li><li>・地域とのつながりこそが利用促進につながりやすいと考えるので、開催場所、回数の再考をお願いしたいです。</li></ul>
------------------------	---



<b>■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進</b>	図書館
------------------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2022年度の事業実績>

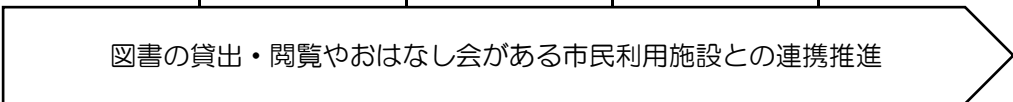
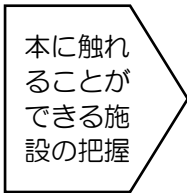
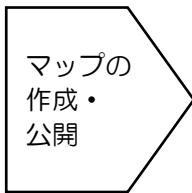
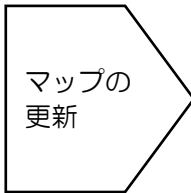
達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：202回、乳幼児向け：102回開催）②宅配ボランティア（宅配件数：431件）③音訳ボランティア（音訳資料制作タイトル数：43点）④点訳ボランティア（点訳資料制作タイトル数：18点）⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：279件）⑥イベント企画（イベント件数：2件）の6分野でボランティアの活動がありました。</li> <li>・さがまち学生Clubが実行委員の「つながりマルシェin芹ヶ谷公園」に、移動図書館が出展しました。電子書籍サービスキャラクター「ブックロー」のしおり（ぬりえ）を学生が作成し、来場者に配布しました。</li> <li>・MSP（町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみちゃう!？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイメントを行いました。</li> <li>・町田市市政モニターアンケートを活用し、「図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて」情報収集を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者に図書館とのコラボイベントを検討・提案してもらい、参画を進めていく必要があります。</li> <li>・ボランティアとして、興味のあることに気軽に参加できる環境づくりや研修制度の充実が必要です。</li> <li>・市政モニターの結果から本の返却や本棚の整理といったボランティアのニーズが高いことや自分の都合の良い時間で参加出来ると参加しやすくなることが分かったため、これらを踏まえた検討が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動につなげるため、読書や図書館に興味を持つきっかけになるようなイベントの企画・運営を検討します。</li> <li>・市政モニターの結果を踏まえたボランティア活動を検討します。</li> </ul>



<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 広範囲のボランティアの取組が図書館にあることはもっと評価していいと思います。</li><li>・ 全体として新たな取組であることから、チャレンジ特有の可能性と課題がありますが、それらをどのように調整してより良いものを実現していくのか、今後の展開が楽しみです。</li><li>・ ⑥は、SNSの話題などからの推察に過ぎませんが、「企画・運営」という面で他者と関わりたい若年層は潜在的に多くいると考えられることから、まだ始まったばかりで件数としては少ないですが、取組を実現したことはもっと評価してもいいのではないのでしょうか。</li><li>・ 様々なボランティア活動がある中で、若者が中心となって図書館でのイベントを企画、実施していることがとても良いと思います。</li><li>・ ボードゲームの企画などから、図書館運営そのものにコミットするような取組が若者を中心に期待できます。</li><li>・ 基本的にボランティア活動には一定の謝金や経費が必須となっており、それらを有機的に活かすオンラインなどのシステムも必要だと考えます。</li><li>・ より良い実現のために、市長部局など、他部課の協働や市民プロジェクト型の取組が必要です。</li></ul> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 若者が図書館を利用することが少なくなっているということ踏まえると、その若者の目線から図書館でのイベントの企画、実施等をするのはとても重要だと考えているため、これからも続けていくべきだと思います。</li><li>・ 地域の市民のアイデアや協働化が実現できるような仕組みを構築したいため、市民の力を結集できるような仕組みやオンライン等の整備、プロジェクト自体の自立性などが求められます。</li><li>・ ⑥に関して、協働化を「本と人をつなぐ」図書館の役割とどう関連付けることができるかが課題だと考えます。今のままだと、公民館などの施設の取組との差別化ができないのではないのでしょうか。ラーニングコモンズの変形などで対応できる方法を探る必要もあるかと思えます。</li><li>・ 7番目の活動として、ネイティブによる絵本の読み聞かせボランティアを募ってみるのはどうでしょうか。ネイティブを活用したおはなし会なども考えられると思います。</li><li>・ 市政モニターに本の返却や整理のボランティアのニーズが高いとされていますが、返却本の確認、書架の整理は利用者のニーズ傾向を知り、自館の蔵書構成の絶え間ない見直しに欠かせない業務であるため、こうした業務をボランティアに委ねることは反対です。</li></ul>
------------------------	---

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①読書活動推進にかかる連携施設数		20か所	25か所	
	②読書マップの作成		未実施	作成・公開 （2020年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標 （指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標 （指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

\*まちライブラリー：『生涯学習推進計画2019-2023』47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

### <2022年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況 （指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動推進にかかる連携施設数は2か所減少し、23か所となりました。</li> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、2023年3月のイベント「本でつながるフェスタ in 鶴川団地 ～本と人とまち～」を開催しました。当日は読書談義や各出展者のおすすめ本の紹介などを実施し、約800人の方々にご来場いただきました。</li> <li>・冒険遊び場や保育園など子どものあつまる場所7か所に対し、移動図書館を合計57回出張運行し、資料の貸出・閲覧を行ないました。さらに、市内のイベントに3回参加し、日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。</li> </ul>
達成状況 （指標②）	B 目標を達成した
取組状況 （指標②）	読書マップは、2023年2月1日現在の情報に更新した改訂版を作成しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力した取り組みについて、継続して検討する必要があります。</li> <li>・読書マップの内容を充実させるため、継続して情報を収集して増やしていく必要があります。</li> <li>・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントについて、2023年度も継続します。</li> <li>・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討します。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

活動指標①

・本と出会う場の創出はこれからの市民協働や読書・読書活動・図書館ネットワークの構築のために必要な対応であると考えます。多くの市民がこの活動に共鳴し、ネットワーク構築の主体となると良いと思います。

活動指標②

・読書マップの作成は、図書館以外にも図書を置いてある施設が身近に多くあることを知らせるために大変良い事業だと思えます。しかし、こうした情報は流動的な面もあり、HPなどで、随時更新する工夫が求められます。掲載された拠点とされるところには、ただ寄せ集めの本が置かれているだけで、おしゃべりの場の「本棚」になっているところもあり、きめ細かな検証が必要です。読書マップの情報は集めた後の検証、更新も同じくらい重要です。

【関連事項提言等】

・昨年度も指摘されていましたが、図書館のHPが見にくいいため、せっかくの情報が探しにくい状態です。バナーなど、見せ方の工夫がないと情報に意味がなくなってしまう。

・個人が開くいろいろな形態の「図書館」「書店」が現れています。このような情報が常に入ってくる情報ステーションとしての機能を持つような体制を公共図書館としてつくるのが重要だと思えます。

・流動的な「本と出会う場所」の情報収集にこそ「ボランティア」を活用してはどうでしょうか。

・少なくなりつつある本屋などとも繋がると面白いと思えます。借りたい本がすぐに手に入らない場合、予約して待つのが嫌なら本屋で購入するなどという方向も必ずしも悪いことではないと思えます。

・移動図書館やデジタル配信など、引き続きアウトリーチの方向を検討してください。

<b>■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上</b>	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     導入のための仕様作成と 実施に向けた準備                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     実施                 </div>
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

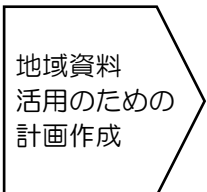

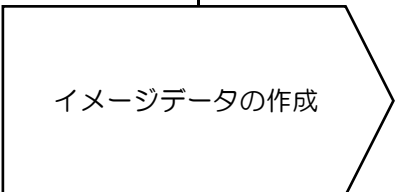

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年10月から電子書籍サービスを開始しました。</li> <li>・図書館で特集コーナーの開設、公共交通機関でのポスターの掲示や飲食店などで名刺サイズ広告の配布依頼など、電子書籍サービスをPRしました。</li> <li>・電子書籍サービスの利用促進のため、館内および出張して講座を実施しました。</li> <li>・館内貸出用タブレット端末を配備し、デジタル環境をお持ちでない方にも電子書籍サービスを利用可能にしました。</li> <li>・市内の小中学生に利用していただけるよう、小中学校との連携に向け担当部署と調整を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入直後のため電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。</li> <li>・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないという現状があり、電子書籍の選書方針の検討が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。</li> <li>・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行うだけでなく、特集を定期的に公開することで、利用を促進します。</li> </ul>

<外部評価>

<p>外部評価者の コメント</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・電子書籍サービスが計画より1年前倒しでの運用となったことを高く評価します。</li><li>・電子書籍サービス開始のPRを図書館に限らない複数の場所において実施したことは、図書館を利用していない層へのアピールとしても効果的であったと評価します。</li><li>・電子書籍利用に関する講座の内容について、反省点はあったようですが、デジタルデバイスの操作に慣れていない人向けに実施をすることは有用なため継続を期待します。</li><li>・一部での館内タブレット端末貸出しについては、市内全館での運用へ広がることを期待します。また、これはデジタルデバイス解消にもつながっていくと考えます。</li><li>・市内小中学校との利用についての調整は、子どもたちの1人1台端末を有効活用していくことにもつながります。連携が早期に実現するよう調整内容についての詳細説明を求めます。</li></ul> <p>【関連事項提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・電子書籍導入経費については紙の図書より高額であることは否めなく、そのために利用者のニーズをよく把握した選書が望まれます。またアンケート実施等、調査を計画的に進めていくことが必要と考えます。</li><li>・将来的にはより実用的な電子書籍の活用が進んでいくことが予想されるため、多様な蔵書の早期充実を期待しますが、そのためには町田市の図書費の増額についても検討の余地があると考えます。</li><li>・インクルーシブな図書館活用の面からも、誰もが利用できる形態を強く望みます。町田市内の私立学校へ出張講座でも手応えを感じられたようですが、今後は外出が困難な不登校児童生徒が、電子書籍で本に出会い、学びきっかけを得る可能性もあります。現在の蔵書のうち児童・YA部門が突出して多いことから、町田市教育センターのけやき教室、くすのき教室、市内フリースクール各所へのPR活動も有効と考えられます。</li></ul>
------------------------	--

■取組5-6 地域資料の活用の推進	図書館
-------------------	-----

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

\*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホームページ公開用の図書館資料の検討を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙の資料は時間や利用により劣化してゆくので、保存を急ぐ必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタル化して保存することにより後世にわたって提供できるよう、企業版ふるさと納税などの補助金を含めた財源について検討します。</li> </ul>

<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】



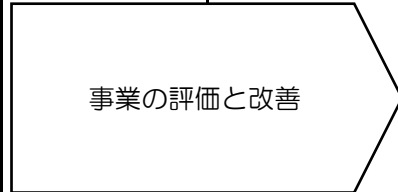

- ・取組がきわめて遅れている項目であるといえます。過年度においても遅れている状況であったにもかかわらず、改善が図られたとはいえません。適切な対応を期待します。
- ・「町田市の図書館評価・2021年度」の同一項目で挙げられていた「課題」や「今後の取組の方向性」では、具体的な内容が記されていましたが、今回の「事業実績」からは、それらに対応がなされたのかどうか読み取れません。
- ・「課題」の記述が、検討すべき事項や実施すべき取組となっておらず、何が問題となっているのかが示されていません。
- ・「今後の取組の方向性」に記されているとおり、継続的な財源の確保がなされることを期待します。

【関連事項提言等】

- ・昨年度にひきつづき、次のような工夫がなされることで、情報にアクセスしやすく、また、情報が活用されやすい仕組みが作られることを期待します。
  - ・ジャパンサーチなどの横断検索システムと連携する。
  - ・他部局が公開するデジタル化資料も検索できるようにする。
  - ・URLの固定化、二次利用条件の緩和と明示など、活用されやすい形式で公開する。
- ・学校での探究学習や各施設における講座等における活用を促す。



<b>■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施</b>	図書館
----------------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2022年度から導入した指定管理者制度の効果を検証するために、利用者アンケートを図書館全館で実施しました。</li> <li>• 図書館を利用していない市民のニーズを把握するために「町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査」を実施しました。</li> <li>• 図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて、町田市市政モニターに対するアンケートを実施しました。</li> <li>• これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 鶴川駅前図書館で開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置を行いました。</li> <li>② 10月から電子書籍サービスを始めました。</li> <li>③ 2月から中央図書館で電子書籍を閲覧できるタブレットの貸出を始めました。</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者アンケートや市民意識調査、市政モニターアンケートの結果から市民のニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。</li> <li>• 開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、タブレット貸出などの新たなサービスが、幅広く市民に利用されているのか検証が必要です。</li> <li>• 指定管理者による運営の効果の検証が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。</li> <li>• 検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。</li> </ul>



<外部評価>

外部評価者の  
コメント

【評価】

・過年度にひきつづき、利用者に対し、アンケート調査が順調に実施され、とりまとめられたこと、また、潜在利用者を含めた調査として市民意識調査がなされたこと、そして、それぞれの結果がウェブ上で報告されていることを高く評価します。これらの結果を活かし、他の取組項目の改善または充実がなされることを期待します。

【関連事項提言等】

・市民意識調査の結果報告書によれば、図書館サービスの認知度に関する設問では、多くの図書館サービスに対して、「知らない」と回答した人の割合が高く、PRに課題がみられます。さまざまな方法を用いて、来館者以外にも、図書館サービスについて周知することを期待します。

・データの有効活用、課題の発見と改善、調査協力者への説明責任の観点から、さらなる調査結果の分析と公表も検討してよいと考えます。たとえば、市民意識調査の結果は、利用者アンケート調査と同様に、主に利用した図書館別に分析することが有効かもしれません。

# 資料 3 - 2

2024 年 1 月 26 日

町田市立図書館長  
中嶋 真 様

町田市立図書館協議会委員長  
松本 直樹

## 町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告

### 1 はじめに

町田市立図書館協議会は、2023 年 8 月 8 日付文書「2022 年度図書館評価の外部評価について(依頼)」に基づき、「町田市の図書館評価」の外部評価機関として、2022 年度の評価を実施しました。以下、その経過並びに評価結果を報告します。

### 2 外部評価の実施方法・スケジュール

『町田市生涯学習推進計画 2019-2023』事業実績(2022 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について、外部評価を実施しました。

#### (1) 方法

- ① 評価は全ての委員で担当する
- ② 全取組項目を 3 グループに分け、グループごとに複数の委員で評価案を作成する
- ③ 全委員で全項目の評価案の確認を行い、外部評価を確定する

#### (2) スケジュール

2023 年 8 月 8 日	第 20 期第 1 回定例会で図書館外部評価の依頼を受ける
2023 年 10 月 6 日	第 20 期第 2 回定例会でグループに分かれて担当事業について説明を受け、評価案について検討 その後、10 月下旬までに各自評価案を事務局に提出
2023 年 11 月 21 日	第 20 期第 3 回定例会で評価案の全体確認及び意見交換 その後、12 月上旬までに評価最終案を事務局に提出
2024 年 1 月 26 日	第 20 期第 4 回定例会で評価案と外部評価に関する報告の内容の最終確認及び提出

### 3 外部評価の結果

『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績(2022 年度分)における図書館所管分、全 14 項目について評価を実施し【評価】と【関連事項提言等】を記載しました。

### 4 全体に関わる評価と提言

#### (1) 全体に関わる評価

図書館による事業実施及び評価は全体として適切に行われていたと評価できます。事業の達成状況は、A が 8、B が 6、C が 2、D が 3 でした(事業により複数指標あり)。2021 年度は、A が 6、B が 9、C が 1、D が 3 であったのと比較すると、それほど大きな変化はありませんでした。2022 年度は、社会に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症の影響が、多少和らいだ年でした。その観点からは、さらなる達成が見られるとよかったと考えます。

#### (2) 外部評価実施全体に関わる提言

外部評価を実施した結果、全体に関わる事項として、以下を提言します。

##### 1) 図書館予算、資料費の確保

図書館に関わる予算は運営、サービスに関わる根幹です。特に資料費は中核的サービスである貸出しを含め、図書館の活動全般に大きな影響を与えます。すでに、2020 年度以降の「町田市立図書館の図書館外部評価に関する報告」の「全体に関わる評価と提言」で、資料費、図書館予算の増額について指摘をしてきました。

残念ながら、今年度の資料費予算は 47,374 千円であり、昨年度比で多少増加しているとはいえ、依然、十分とはいえません。貸出点数も残念ながら大きく減少しています。9 月の議会定例会では市民から「町田市立図書館の資料購入費の増額を求める請願」(本会議：不採択、委員会審査結果：採択すべきもの)が出されました。図書館として予算確保に向けて積極的な取組みを期待します。

##### 2) 評価の枠組みの検討

現在の図書館評価は、『町田市生涯学習推進計画 2019－2023』事業実績の図書館所管分を対象としております。当該計画は今年度で計画期間が終了します。したがって、評価の枠組みを再考する好機です。現在の図書館評価は、評価指標と評価方法に課題があります。評価指標に関しては、いわゆるインプット指標が多く、アウトプット、アウトカム指標が十分ではありません。事業の成果、効果を知る上でも、評価指標を再検討する必要があります。

また、評価方法に関しては、図書館協議会の評価に十分な時間が確保されていない点が課題です。そのため、事業に対する委員の十分な理解としっかりとした協議を踏まえた評価が

## 資料 3 - 2

必ずしもできておりません。また、新委員にとって、図書館を十分知る前に評価をしなければならぬという問題があり、大きな負担となっております。以上のような評価指標と評価方法の課題について、図書館協議会を交えて、検討することを期待します。

### 3)事業改善に向けた取組

多くの事業に関して、図書館の熱心な取組状況が確認できました。しかし、昨年同様、一部事業において、改善の見られない事業がありました。事業が十分展開できなかったことには、事情があったと推察されます。しかし、図書館法第七条の三に「図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とあるように、法律は図書館に改善のための必要な措置を講ずることを努力義務として課しています。この評価を図書館事業の改善の機会とすることを期待します。

## 5 結び

図書館協議会は、「2022年度図書館評価」の外部評価機関として評価を行いました。現在の評価方法は定着してきましたが、よりよいものとなるよう今後も引き続き改善していく必要があります。図書館評価は、先に述べたように、図書館の活動が少しでもよくなるようになるために行うものです。評価のための評価とならないよう、図書館協議会だけでなく図書館職員のみなさんと一緒に改善していければと思います。

## 図書館からの報告事項

### 1. 町田市議会の動向

(1) 第4回定例会（11月29日～12月22日）

①一般質問

12月4日

・田中議員「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプランについて」

(1)「さるびあ図書館」の今後についてどのような検討がされているか。

(2)移動図書館「そよかぜ号」についてどのような検討がされているか。

②文教社会常任委員会（12月12日）

・行政報告「鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について」

### 2. 町田市教育委員会の動向

(1) 第9回定例会（12月20日）

・報告「鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について」

### 3. 各種計画（町田市5ヵ年計画22-26、公共施設再編計画、アクションプランなど）に基づく取組

(1) 町田市教育プラン2024-2028の策定状況について

→パブリックコメント（10/1～10/31）の実施結果【資料4-2】

市HPに掲載のほか、市民センター・図書館など市施設に配置（1/15～2/15）

(2) 鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について【資料4-3】

(3) 「推し本を伝えよう！ひとことPOPコンテスト2023」の審査について

→図書館協議会賞について【資料4-4】

## 町田市教育プラン 24-28(原案)のパブリックコメント実施結果について

「町田市教育プラン 24-28」の策定にあたり、下記のとおりパブリックコメントを実施いたしました。貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。ご意見は今後の市の教育行政の参考にさせていただきます。

## 1 意見募集期間

2023年10月1日(日)～2023年10月31日(火)

## 2 意見募集方法

広報まちだへの概要の掲載及び町田市ホームページへの資料掲載、町田市公式 LINE での通知のほか、下記公共施設において資料の閲覧・配布を行いました。また、市内公立小中学校及び PTA へ意見募集チラシの配布、児童・生徒が使用するタブレット端末へのブックマーク登録を行いました。

## 【資料の閲覧・配布及び意見提出窓口】

教育総務課(市庁舎 10 階)、市政情報課(市庁舎 1 階)、広聴課(市庁舎1階)、男女平等推進センター(町田市民フォーラム 3 階)、教育センター、生涯学習センター、忠生市民センター、鶴川市民センター、南市民センター、なるせ駅前市民センター、堺市民センター、小山市民センター、木曾山崎コミュニティセンター、玉川学園コミュニティセンター、町田駅前連絡所、鶴川駅前連絡所、各市立図書館、町田市民文学館、各子どもセンター

## 3 寄せられたご意見

19名の方から 59 件のご意見をいただきました。お一人から複数のご意見をいただいた場合は、趣旨ごとに分割して集計しております。

項 目		件 数
計画全般について	外国と渡り合える人材の教育について	1 件
	評価・総括について	1 件
基本方針 I について	児童生徒の「学び続ける力」を高めるための授業の改革について	5 件
	英語教育について	5 件
	STEAM教育 <sup>※1</sup> について	2 件
	ICTの推進について	6 件
	キャリア教育について	4 件
	体育授業への外部人材活用について	1 件

	他人への理解、豊かな心、思いやりを育むについて	1 件
	移動図書館について	1 件
基本方針Ⅱについて	不登校児童生徒への支援について	2 件
	特別支援教育について	2 件
	日本語指導について	5 件
基本方針Ⅲについて	学校統合について	3 件
	学校図書館について	3 件
基本方針Ⅳについて	コミュニティ・スクール <sup>※2</sup> について	2 件
	部活動の地域移行について	1 件
	学校施設の活用について	1 件
	生涯学習・リカレント教育 <sup>※3</sup> について	1 件
	教員の働き方改革の推進について	8 件
その他	AIについて	1 件
	給食費の無償化について	1 件
	国語教育について	1 件
	多様性について	1 件
合計		59 件

#### 4 ご意見の概要と市教育委員会の考え方 全件(59件)

ご意見の概要とそれに対する町田市教育委員会の考え方は以下のとおりです。  
なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見は要約し、掲載しています。

##### ◆計画全般について（2件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
1	本教育プランは将来を見据えた必要なプランであると思う。教育、研究開発にしっかりお金をかけ、外国と立派に渡り合える人材の教育が必要と考える。	町田市教育プラン 24-28 では、人口減少・高齢化、AI や ICT の進展等により、社会環境が著しく変容すると想定される 2040 年の社会を見据え、実現したい社会の姿を表すものとして、「自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来」を教育目標に設定しました。 また、これからの町田の未来を考えたときに、全市民が生涯にわたって学び続ける学習者としての土台を学校教育で培うとともに、いつでも学ぶことができる環境を生かし、生涯

		<p>を通して学び続けていくことが、より良い町田を創るために欠かせないことと捉え、「学び続ける力」を本計画の基本方針・施策に組み込む要素としました。</p> <p>これらのことを踏まえ、本計画に掲げる取組を環境変化に対応しながら着実に推進し、町田の未来を創る人材を育成してまいります。</p>
2	<p>町田市教育プラン 24-28 の中に今後 5 年間のプラン実施の実績成果の客観的な評価・総括する項目も含めて「プラン」とすべきである。プラン実施の実績成果について当事者および第三者による評価がないとプランは単なるプランで終わってしまい、次にまた同様にプランの提案をするだけの繰り返しになってしまう。</p>	<p>町田市教育プラン 24-28 では、現行プランに引き続き、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき実施する「町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価会議」において、毎年度各取組の評価を実施し、この評価について、教育に係る専門的な知見及び保護者の視点から、外部の助言者に助言をいただくこととしております。この評価を次年度の取組に生かし、本プランを着実に推進してまいります。</p>

◆基本方針 I 「未来を切り拓くために生きる力を育む」について（25 件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
3	<p>「個別最適な学び」、「協働的な学び」についてしっかり言及している点について評価したい。中教審の「令和の日本型学校教育」の内容が反映されている。また「学び続ける力」を新たな学力として捉えて、生涯学習に通じる考え方を盛り込んでいる。</p>	<p>「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実させ、生涯を通じて学び続ける学習者としての土台となる「学び続ける力」を育ててまいります。</p>
4	<p>「個別最適な学び」、「協働的な学び」について教員と共有するとあるが、そういったポータルサイトが教員の指導力向上や児童生徒の学力向上にどの程度影響するのかエビ</p>	<p>児童生徒及び教員へのアンケート調査及び分析を実施し、改善をしながら進めてまいりたいと考えております。</p>



	<p>デンスペースで議論ができるように児童生徒と教員の両方へ継続的な調査・分析を行うしくみを作るべきである。</p>	
5	<p>オンライン英会話の教材などタブレット端末を活用した、個別のレベルに応じた学習が進められる教材、機会を用意するべきである。</p>	<p>市教育委員会では、全小・中学校の児童生徒に、デジタル教科書を提供し、学習ドリルソフトを導入しております。</p> <p>外国語の授業についても、ICTを活用し、「個別最適な学び」の実現の充実を図ることができるよう、教師に対する研修会を実施し、授業力向上を図ってまいります。</p>
6	<p>児童生徒の「学び続ける力」を高めるための授業の改革に関連して、各小学校が自分の住む地域について調べたことをお互いに発表しながら作りあげる町田市マップの作成や、学校全体でマルシェ等を開催するなど、教科のボーダーを取り払った実践行事の取り組み、児童の得意分野を各々発揮できる行事の取り組みなどを通して、児童の深い学びにつなげていければと考える。</p>	<p>現在も、総合的な学習の時間等で、自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくりなどの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を行っております。今後も、地域や家庭の協力も得ながら学習活動を進めてまいります。</p> <p>また、カリキュラム・マネジメント<sup>※4</sup>にも取り組み、児童生徒の学習の効果を最大化できるよう努めてまいります。</p>
7	<p>現在も教員用 ICT 活用ポータルサイトがあるが、どの程度活用されているのか。</p> <p>連絡帳、読書カード、水泳カードなどは紙で、キャリア・パスポート<sup>※5</sup>は紙をデジタルにただけであるが、学習履歴とすれば価値のある情報になる。「学び続ける力」を育むために、「学び続けてきた履歴」を残せるような ICT の活用の施策が必要ではないか。</p>	<p>教員用ポータルサイトについては、活用事例やテンプレートの拡充、オンデマンド研修への活用などを進め、アクセス数は増加しております。今後も内容の拡充、周知や活用を進め、教員間の情報共有を円滑にしております。</p> <p>連絡帳等については、これまで各学校の方針により運用してきた背景から、市内統一での運用は実態にそぐわないと考えます。各学校がデジタル化を検討する際に、円滑に進められるよう、教員用ポータルサイト等で</p>

		の事例共有を検討してまいります。キャリア・パスポートにつきましては、進学・転学時に、受け入れ先の学校が紙面での運用にしか対応できない可能性に備え、印刷を想定した仕様としております。
8	イングリッシュ・フェスタ <sup>※6</sup> やブリティッシュヒルズ <sup>※7</sup> への移動教室など英語学習を生かした活動を取り入れている点は評価すべき点である。	今後も体験活動を重視した町田ならではの英語教育を推進してまいります。
9	ブリティッシュヒルズへの移動教室が中学校2年生で希望校のみの実施だが、どれだけの学校が実施するか疑問である。奈良/京都方面に固定化している修学旅行に変えて、ブリティッシュヒルズへの滞在にするなど、学校長の裁量に期待したい。また、実施状況を市民が目にするようにするべきだと思う。	ブリティッシュヒルズへの移動教室については、2023年度については3校、2024年度については4校実施の予定です。実施状況の公表につきましては、検討してまいります。
10	中学校では英語を140コマ×3年＝420コマと国語など他の教科よりも多い時数を使って学習している。それだけでなくALTを配置したり、小学校から英語を学習しているにもかかわらず、児童生徒の英語力が現状に留まっている原因をもう一度よく精査して、授業改善を最優先すべきである。	全国学力学習状況調査や、東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査等、各種調査の結果分析を行うとともに、市が開催する研修会等で周知し、授業改善を進めてまいります。
11	放課後英語教室は、子どもが利用させてもらっており、とてもありがたい。 外部講師による講座が放課後に学校で受けられるのは、習い事にお金をかけられないが、子どもは学びたがっている時にととてもありがたい。	市教育委員会では、今後も「えいごのまちだ事業」に注力し、今まで行ってきた小学校放課後英語教室等を継続しつつ、さらに体験的な活動の一層の充実を図り、子どもたちの英語によるコミュニケーションを積極的に図る態度やコミュニケーション能力を育成してまいります。
12	英語教育については、まずは言語よ	英語教育につきましては、子どもが

	りも交流を大事にして欲しい。	ALT <sup>※8</sup> と英語でコミュニケーションをとりながら、体験活動に取り組み、異文化に触れるイベント(イングリッシュ・フェスタ)や、スヌーピーミュージアム <sup>※9</sup> や TOKYO GLOBAL GATEWAY <sup>※10</sup> 、ブリティッシュヒルズを活用した校外学習などの体験活動を小・中学校を通じて系統的に実施してまいります。
13	町田市の規定する「STEAM 教育」が具体的に何を指すのか非常に曖昧で、教科横断的にカリキュラムマネジメントを考えているのか、各教科の取り組みを深めるのか、またその両方なのかが見通せない。	重点事業4「STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育の充実」については、2024 年度に科学教育推進プランを策定する予定です。「STEAM 教育」の定義や方向性についても、科学教育推進プランを策定する中で、検討してまいります。
14	STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育の充実について、プログラミング的思考に関する施策を盛り込む必要はないか。 STEAM 教育には学校授業でのプログラミングは欠かせない教育となるが、プログラミング教育に関する支援や施策が少ないように感じられる。	「プログラミング的思考」の育成については、ICT を活用した教育における各学年で目指す子どもの姿(指標)をまとめた、「Machida Next Education で目指す子どもの姿」(2021 年度作成)において、項目の1つとして取り上げ、各学校での取組推進を図っております。 「プログラミング教育」における、各学校への支援については、科学教育センターでの実践を各学校で取り入れられるよう、情報発信を行ってまいります。また、一人1台端末を活用しやすいよう、ソフトウェア構成の見直しや活用方法の周知等を進めてまいります。
15	電子機器の学習時間が長くなることで、脳が退化し意欲低下につながっているように感じる。	授業等で一人1台端末等を活用することにより、個々の児童・生徒の習熟度や関心等に合わせた「個別最適な学び」や他者と意見交換をしながら取り組む「協働的な学び」を一層充実させることが可能となります。今後

		も ICT 機器を効果的に活用することにより、子ども達の学習意欲を高めるとともに、「学び続ける力」を育成してまいります。
16	ICT の推進が求められるあまり、本来 ICT を使わない方が子どもの書く力がつくのではないかと思われるような授業にまで ICT が使われているのが気になる。	授業では書く活動に必ず ICT を使用することを求めているわけではなく、例えば、学校行事後の振り返りや日常的な出来事について日記を書く活動を手書きで行う等、教員がそれぞれの活動のねらいに即して、手書き、ICT の活用、それらの併用を選択したり、子ども自身が選択したりすることで書く力の向上に取り組んでおります。
17	ICT 活用について、タブレット端末を活用していくにあたり、学校教育として一般常識レベルで事前に考慮すべきリスクへの対応策を準備した上で進めてほしい。	タブレット端末の活用にあたるリスクへの対応につきましては、使用状況に関するログの取得と管理、フィルタリングソフトの導入、児童・生徒アカウントにて利用できるサービスの制御等の体系的な対策を実施しております。 加えて、市教育委員会で作成したリーフレット「タブレットを使う時の約束」を活用するなどして、各学校において発達段階に合わせながら、児童・生徒の情報リテラシーの向上に取り組んでおります。
18	ICT の活用といった記述がある一方、情報活用能力についての記述が全くない。文部科学省も全ての学習の基盤となる力をどう扱って行くのか示すべきである。	情報活用能力については、「情報活用能力の体系表例」(文部科学省)や「情報活用能力#東京モデル」(東京都教育委員会)を参考に 2021 年度に作成した「Machida Next Education で目指す子どもの姿」において、各学年での目標を設定し、計画的な育成に取り組んでおります。
19	国費で GIGA スクール構想による端末導入したにもかかわらず、ICT	学校間・教員間の差の解消につきましては、定期的実施する市独自の

	<p>利活用が(授業、校務関係なく)教員ごと・学校ごとに差が埋まらないのは、現状の多忙感を考えたとしても早急に改善されるべきである。日本教育工学協会(JAET)の学校情報化認定の制度等を活用し、学校ごとの差を可視化し、認証取得などの支援を行うべきである。</p>	<p>活用状況調査等を基に各校の活用状況を把握しながら、対策を進めております。</p> <p>学校情報化認定制度の活用につきましては、ご意見として対策を進める際の参考とさせていただきます。</p>
20	<p>ICTを活用した学びの充実、学校におけるICT環境の整備について教員がタブレット端末を授業で使用することに集中できるよう、ソフト面だけでなく、ハード面や環境整備に従事する人員が必要ではないか。</p>	<p>ICT関連の事務を一任する人員の配置については、関連事務が常時発生するものでないことから、難しい状況です。</p> <p>しかし、ICTに関連した教員の事務負担の軽減は重要であると考えており、作業内容の見直し、マニュアルや様式の作成等により、作業がより簡易になるように努めてまいります。</p> <p>また、担当者など一部の教員に負担が集中しないよう、教員用ポータルサイトでの情報掲載等を進め、教員間での作業分担やスクールサポートスタッフ<sup>※11</sup>等への補助依頼が円滑に行えるような環境整備に取り組んでまいります</p>
21	<p>キャリア教育について従来の「職場体験」でなく、CAPS・MESE<sup>※12</sup>のような経営シミュレーションを取り入れているのは評価すべき点である。</p>	<p>CAPS・MESEは、2023年度から、町田市立学校全校で取り組んでおります。2024年度もCAPS・MESEについては、継続して実施していきます。今後も、評価・改善を図りながら、キャリア教育に取り組んでまいります。</p>
22	<p>CAPS・MESEを取り入れている学校もある一方、従来通りの「職場体験」が行われ続ける学校の方が多い可能性が高い。旧来の職場体験では既に存在する職業(特に小売店などの店舗体験)が多く、生徒が主体的に職業や進路を考える活動に</p>	<p>CAPS・MESEは、2023年度から、町田市立学校全校で取り組んでおります。2024年度もCAPS・MESEについては、継続して実施します。また、町田市では、職場体験だけでなく、系統性をもち、教科横断的な視点でキャリア教育を推進してい</p>

	つながりにくい。それであれば、企業経営体験などを全面導入するべきではないか。	ます。今後においても、児童・生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供することを中心としたキャリア教育を実施してまいります。
23	キャリア・パスポートについて全く活用できていない現状を踏まえ、教育プランに盛り込むべきである。	キャリア・パスポートについては、「町田市版キャリア教育プログラム(小中一貫町田っ子カリキュラム「キャリア教育」)」の中に位置付け、取り組んでおります。また、その運用方法や活用方法につきましては、改善を図りながら取り組んでまいります。
24	教員は進路指導しか出来ないことを理解し、市内の様々な事業所に協力してもらいキャリア教育を行う体制を構築するべきである。	キャリア教育推進に向けて、重点事業 34「コミュニティ・スクールの推進」において作成する「町田市大学・企業連携事業人材リスト」等を活用しながら、学校の特色に応じたキャリア教育が実施できるよう体制を構築してまいります。
25	「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践に関連して、外部人材を取り込むことはそれに伴う事務手続きや勤務環境整備が必要となるが、教育現場に負担がかからないよう配慮が必要である。また、外部人材を増やすことで、担任が調整する必要が出てきてしまう。そういった「見えない細かい業務」について教員の負担を減らすよう配慮が必要である。	外部人材の活用の事務手続等については、希望調査をして、必要としている学校への配置を考えています。また、実際に活用する際に、事前の打ち合わせ等は最小限で済むように、外部人材の役割を技能の模範を見せたり、苦手な児童への個別指導をしたりするなど明確にしてまいります。
26	施策 4「他人への理解、豊かな心、思いやりを育む」ということは、子供たちの教育には、まさに必要なことだと思う。ただ、課題として記載されている「いじめの問題に対して、児童生徒、教員、保護者、地域社会が一体となって取り組んでいく意識の向上と体制づくり」の具体的内	いじめ問題の解消に向けた取組については、学校、教育委員会、さらには家庭や地域も含めた社会全体が一丸となり、推進することが求められています。そのため、町田市で策定している「町田市いじめ防止基本方針」や、各学校で策定している「学校いじめ防止

	<p>容がわからない。 学校として(校長の方針)、何を しているのか具体的に保護者に 伝わっていないと感じる。 学校ばかりで対応するのでは なく、もっと保護者家族にも協 力を求めて良いと思う。</p>	<p>基本方針」において、いじめ問 題に向けた取組を記載し、推進 しております。また、これらの取 組を、家庭や地域など子どもに 関わるすべての方々が共通理解 して対応できるように、各学校 では、「学校いじめ防止基本方針 」について、入学時や年度初め 等の機会を捉えて、学校便りや 保護者会での説明、学校ホーム ページの掲載など定期的に家庭 や地域等に周知しています。 今回のご意見を受け、地域や保 護者等に向けて更なる共通理解 が図られるよう、各学校に周知 してまいります。</p>
27	<p>移動図書館は図書館空白地帯 を補うための重要なサービスだ が、現在の移動図書館車は老朽 化しているため、移動図書館車 の更新をしてほしい。</p>	<p>いただいたご意見につきましては 、事業を進める際の参考とさせ ていただきます。</p>

◆基本方針Ⅱ「一人ひとりの多様な学びを推進する」について（9件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
28	<p>不登校児童生徒への支援の充実、 不登校児童生徒の学習環境の整備 について、不登校傾向にある児童 の要因は、学校の環境と子どもの 相互作用で起こると考えられる。 子どもに原因があるかのような「 不登校」という表現で一括りにす ることは違和感がある。「公教育 のシステムありき」ではなく、子 どもが中心の教育を推進してほ しい。</p>	<p>市教育委員会としては、不登校 の要因に注目するのではなく、子 どもたちの多様な学びの場の確 保とつながる仕組みづくりに取 り組んでまいります。</p>
29	<p>いろんな選択肢ができてくると、 どこかに繋がなければと焦る先 生や家庭も出てくると思うが、 その焦りから大人のペースで子 どもを動かそうとし、かえって 不登校を拗らせ</p>	<p>学びの場が多くなることで、子 どもたちにとって休息も含めて、 必要な支援を判断することが難 しくなることもあると考えてお ります。 そのため、相談体制や保護者支 援の</p>

	<p>てしまうこともある。どこかに繋がることより、まずは休息が必要なケースもあるとしっかり言及してほしい。</p> <p>その期間は親にとっては先が見えずに苦しい時期になることも多い。その時期こそ保護者支援が必要な時期である。</p>	<p>強化についても合わせて取り組んでまいります。</p>
30	<p>「発達支援ルーム」についてどのような取り組みで、いつから、どのような規模で、対象者について行われているか教えてほしい。</p>	<p>発達支援ルームとは、特別支援教育に精通した職員が対象児童のいる小学校を訪問し、学習面を中心とした認知機能を高めるトレーニングを対象児童に対して直接行うことで、学習への適応及び意欲を高めることを目指した取り組みです。</p> <p>2021年度から開始し、1校につき半年間の期間で、年間4校ずつ実施しております。</p>
31	<p>特別支援教育の強化は間接的だが確実に町田を良くする試みは有り難い。</p>	<p>重点事業 20「特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実」を着実に進め、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりが生活や学習での困難を克服し、個々の能力を最大限生かしていけるよう支援の充実を図ってまいります。</p>
32	<p>町田市版帰国・外国籍児童生徒等に対する日本語指導手引きの作成とあるが、文科省作成や東京都作成のものがある中で町田市版を作成する意義は何か。</p> <p>どのように日本語指導員<sup>※13</sup>を集め、育成していこうと考えているのか。指導経験のある有資格者の指導員を公募で募集してほしい。</p> <p>日本語指導員の研修は、教員と日本語指導員の双方が参加する研修にしてほしい。</p>	<p>文部科学省や東京都のものをベースに町田市の資源や実情に合わせた日本語指導を実施するため、町田市版の手引きを作成してまいります。</p> <p>また、日本語教師養成課程を設置している市内大学等と連携を行い、日本語指導員の公募の仕方や育成など今後の日本語指導の在り方を研究し取り組んでまいります。</p> <p>日本語指導員の研修については、日本語指導員と学校の教員が連携して取り組むことが重要であると考え、2023年度に、日本語指導員と学校</p>



		の教員の合同の研修を実施しました。学校全体での支援体制を構築するため、今後も継続的に実施してまいります。
33	「町田市版 帰国・外国籍児童生徒等に対する日本語指導手引き」が、日本語指導員だけに向けたものではなく、小中学校の先生方に向けたものであることを望む。同時に、その手引きの内容を先生方にしっかり周知する方法もお考えいただきたい。	いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
34	外国にルーツのある子どもたちの課題を取り上げ、基本方針 II に盛り込んだことは非常に重要なことだと感じている。重点事業21の日本語指導員と学校の教員との「関係者連絡会」は、非常に重要だと考える。学校内だけでなく、学校間(小学校間、小中学校間等縦のつながりも)の連携を通して、子どもたちの学びを「途切れなく」支援していく必要がある。今後は「関係者連絡協議会」などより充実した支援体制の構築も目指していきたい。	いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
35	町田市への転入手続きをした学齢期の子どもがいる外国人ファミリーに、ぜひ日本の小中学校の基本的な生活とルールやきまりについての情報を提供していただきたい。	学齢期の子どもがいる外国籍のご家庭で、転入時等に相談があった際は、国際交流センター等関係機関につながり連携を図っています。また、新入学予定の外国籍のお子様がいるご家庭へ、入学される前年度に外国人児童生徒のための「外国人のための就学ガイド」を送付し、日本の入学手続きの案内をしています。
36	帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実に関連して、外国籍児	帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導を充実させるためには、学校以

<p>童生徒においては、日本語指導以前の問題として、地域とのつながりが希薄であることや、日本文化への馴染みのなさが想定される。教育の土台作りとして、生活が充実していることは不可欠ではないか。国際交流センターや福祉分野との連携を教育プランに盛り込むことが必須と考えるが、どうか。</p>	<p>外の支援体制も重要であると認識しています。 現在、策定を予定している「町田市版帰国・外国籍児童生徒等に対する日本語指導手引き」には、町田市における大学や関係機関と連携した学校以外の支援についても、盛り込む予定です。</p>
--	--

◆基本方針Ⅲ「将来にわたり学ぶことができる環境を整備する」について（6件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
37	<p>学校統合計画については、再考願いたい。</p>	<p>市教育委員会では、2040 年度における町田市立小・中学校の児童・生徒数が、2020 年度と比べて約 30%減少すると見込んでおります。このような中では、1 学年単学級になる学校が増えてくると想定され、そうした場合でも教員の学校運営に関する業務が減ることはありません。また、教員不足や教員の多忙化が社会問題となる中、子どもの教育といった本来の業務がおろそかになる、そんな現場の声を聞いております。</p> <p>また、少子高齢化による社会保障関係経費の増加と市税収入の減少が見込まれることや、学校施設の老朽化が進む中で、すべての学校施設を維持しながら充実させていくことは困難と考えております。</p> <p>市教育委員会では、このような環境</p>

38	<p>学校の統廃合はやめてほしい。学校が遠くなってしまって、通学自体が大変になってしまっては元も子もない。校区の端と端とに住む子らが、お互いの家に遊びに行くのに何十分とかかってしまっては、子供達の社会性が育ちに小さくなってしまうと思う。</p>	<p>変化に対応しながら、子どもたちがより良い教育環境で学ぶことができるよう、2021年5月に「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。この計画に基づき、地域や関連部署等と連携し、学校統合に向けて準備を進めております。</p>
39	<p>新たな学校づくりの推進、安心できる通学環境に関連して、学校統廃合により通学時間が長くなる場合、夏季は熱中症のリスクがある。通学路に店舗や事業所があれば、子ども110番とは別に、クールエリアとして協力してもらえるような事業への取り組みがあればよい。</p>	<p>各学校では、市教育委員会から発出した熱中症事故の防止に関する通知や、学校危機管理マニュアル等に基づき、熱中症予防の取組を行っております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、今後の取り組みの参考にさせていただきます。</p>
40	<p>「重点事業 30 学校図書館の機能強化」について、学校図書館図書標準<sup>※14</sup>算出の基礎となる学級数に、特別支援学級の学級数を含んでいただきたい。特別支援学級の児童生徒も学校図書館をよく利用している。</p> <p>また、廃棄基準策定には、全国学校図書館協議会の廃棄基準を採用していただきたい。学校図書館が教育課程の展開に寄与するためには、図書標準の蔵書数を満たすだけでなく、蔵書の内容自体の充実を図らなければならない。</p>	<p>蔵書数の確保および更新については、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実に欠かせないものと考えています。いただいたご意見につきましては、事業を実施する際の参考とさせていただき、今後も学校図書館の機能強化に取り組んでまいります。</p>
41	<p>学校図書館と子どもの読書推進に関わる部分について、学校司書<sup>※15</sup>配置を書き加えることを強く提案する。</p>	<p>町田市では、学校図書指導員<sup>※16</sup>が各学校において、有償ボランティアとして活動しております。学校図書指導員は、図書の貸出や返却、新しい本を購入する等の蔵書管理や図書館の環境整備を行い、学校図書館機能の充実を図っております。</p> <p>また、同時に学校司書等の学校図書</p>

		館の運営を担う人材の確保について、2024 年度中に方法の検討を行い、2025 年度よりモデル事業の実施を行う予定です。
42	町田市教育プラン 24-28 では「学校司書等の学校図書館を運営する人材等」と等という言葉がついているが、学校司書以外の人材とは何を想定されているのか。現状をどのように把握し、どのように改善したいのか、町田市の 10 年後の学校図書館はどうなっているのか、どのようにしたいのかをまず示してほしい。	<p>学校司書以外の人材についてですが、現行の学校図書指導員に加え、司書、司書補又は司書教諭の資格を有する方を巡回型職員として任用するなど、モデル事業の実施を検討していく予定です。</p> <p>現状の把握についてですが、市教育委員会が定期的に実施している学校訪問の際や、学校図書館担当者研修会における意見交換やアンケート内容から現状を把握し、改善策を検討してまいります。</p> <p>町田市教育プラン 24-28 では、児童生徒が本に触れ合う機会を増やし、豊かな知識や心を持つことができるよう、学校図書館の機能を強化していくことを目的とし、重点事業に位置付けております。児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実させ、学び続ける力を育むことができる学校図書館にしてまいります。</p>

## ◆基本方針Ⅳ「地域とともに学ぶ力を高める」について（13件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
43	今回の教育プランを進めて行く上で重要な位置を占めるコミュニティ・スクールだが、学校運営協議会の中が、市民や保護者からもっと可視化されるべきである。	<p>コミュニティ・スクールの課題として、保護者への認知度が低いことがあげられます。今後はコミュニティ・スクールの周知を進めてまいります。</p> <p>さらに学校運営協議会の中で、議論や話し合われた内容についても、学校から積極的に保護者、地域住民に対し、情報発信を行ってまいります。</p>

44	<p>学校運営協議会の構成メンバーの年齢や性別に偏りがある。女性や10・20代の若者も入れて多様な意見を学校運営に活かせる仕組み作りを進めるべきである。</p>	<p>学校運営協議会委員には、当該学校に対して、建設的な意見を述べ、学校運営に責任感を持って参画できる方が望ましいと考えております。</p> <p>町田市が学校運営協議会の構成に必須と考える委員には、①地域住民、②保護者、③まちとも<sup>※17</sup>・地域未来塾<sup>※18</sup>等学校支援関係者、④ボランティアコーディネーター<sup>※19</sup>を必須としております。それ以外の構成については学校が必要な人材を学校長が推薦いたします。</p> <p>多様な意見を学校運営に活かす仕組みについては、今後検討してまいります。</p>
45	<p>部活動の地域移行について、国や都の動きを待たず先進的な取り組みをしている市町村を参考に押し進めるべきである。部活動の問題は教員確保にも繋がる重要な施策である。労働環境を改善して、勤務地として町田市を選んでくれる教員を増やすためにも優先的に取り組むべきと考える。</p>	<p>市教育委員会では、部活動地域移行に向けた部活動地域移行検討委員会(仮称)設置に向けて、準備を進めております。</p> <p>部活動の地域移行については、国や都の動向を注視しながら、取り組んでまいります。</p>
46	<p>学校施設活用の推進について、既にまちともや学童、放課後英語教室等で放課後の学校施設は使用されているため、競合した場合どの事業を優先するのか。</p>	<p>「町田市放課後子ども教室まちとも」、「学童保育」、「放課後英語教室」等の子どもの体験活動を優先し、これらも含めた学校施設の利用に関する仕組みづくりについて検討してまいります。</p>

47	生涯学習やリカレント教育について、市の施設を活用するのも大切だが、市内及び近隣の大学と連携し、大人も学びたいと思ったときに学べる環境を市が責任をもって作るべきである。	生涯学習やリカレント教育については、市内及び近隣の大学と連携しながら、その充実に努めてまいります。
48	町田市教育プランを策定し町田市独自の教育を行うにあたり、プラスで質の高い教育を行うとなるとその分教員を増やさないと対応しきれず教員の負担が増えることになると思うので町田市独自の採用や予算がどのくらい用意されているのかが気になる。 そのようなものがなく市独自の教育を行うとなると、他の何かを削るか教員の負担を増やすかの選択になってしまうと思うので心配である。	各小・中学校には、東京都教育委員会が定める定数配当基準に基づき、学級数に応じた人数の教員が配置されています。 町田市教育プラン 24-28 で独自性のある教育を教員の負担が生じないよう推進するため、重点事業 42「学校支援体制の強化」では、多様な専門性を有する人材を確保してまいります。また、重点事業 41 では「教員が担う業務の負担軽減」を図り、教員の本来担うべき業務を精査・整理してまいります。教育プラン 24-28 では、独自性のある事業を進めるとともに、教員の働き方を改善する仕組みを両輪で回すことで、プランを着実に推進してまいります。
49	教員の働き方改善といった、間接的だが確実に町田を良くする試みは有り難い。	基本方針Ⅳ施策2「教員の働き方を改善する」を推進し、教員の業務の縮減・適正化を進めることで、教員が働きがいを感じることができるよう取り組んでまいります。
50	生徒への適切な教育には先生方の健康も重要である。休職や退職をされる先生が増えていると聞いている。先生方がそのような状況に陥らないように校長先生や他の先生方がサポートできる組織にしていきたい。	2023 年度から、新規採用教員や希望する学校を対象として、臨床心理士等が訪問する事業が東京都の事業として開始されました。 このような事業も活用し、教職員が健康に働き続けられる環境を整備してまいります。
51	教員の働き方改革の観点から、これ以上研修を盛り込むというのは現実的でない。いかに 1 回の授業の中	教員の働き方改革については、町田市教育プラン 24-28 の中で、基本方針Ⅳ施策2「教員の働き方を改善

	で質の高い指導を行うか、という教員の原理原則に向き合えるよう、労働環境の改善無くして、指導力向上の活動を盛り込んでも無意味である。	する」として位置づけ、人材支援や業務の適正化等に引き続き取り組んでまいります。
52	これだけ教員のなり手が不足している現状で、地域未来塾で指導を担う人材が集まるのか不安がある。地域未来塾が開ける学校と開けない学校の差が生じた場合などについても考慮して欲しい。	市教育委員会では、学生や教員OB等を中心に地域住民の協力で、地域未来塾を実施しています。教える人材の確保については、新たに構築する町田市学校支援バンクや既存の町田市登録ボランティア等を積極的な活用を進めてまいります。さらに大学や企業との連携も積極的に行い、学校が求める人材を確保してまいります。
53	授業で使うタブレット端末について言及されているが、教職員が職員室で使用する端末についても整備していくべきであり、教育プランに明記すべきである。	教職員が校務で使用するための端末につきましては、正規教員に一人1台のタブレット端末を整備するとともに、正規教員以外も使用できるよう共用端末を一定数整備しており、台数は充足していると考えております。
54	「教員が担う業務の負担軽減」、「学校支援体制の強化」に関連して、ICT 機器に関する保守運用や、転出入処理、備品管理など教員の仕事ではない「隠れた業務」について教員に調査を依頼するのではなく、現場に足を運んで調査してほしい。	各学校に配備した ICT 機器やアカウント等の管理に関する調査については、市全体や各学校の状況を正確に把握する必要があるため、学校現場を把握している教員に調査を依頼しております。調査の精選を検討しながら、必要に応じて実施してまいります。
55	「放課後の地域の児童の過ごし方」について、例えば公園で危ない遊びをしているとか、下校時刻をとっくに過ぎていのに帰宅しないなど、教員が本来授業準備や自己研鑽に充てる時間を確保するため、放課後の児童に対応できる部署の設置が必要と考える。	教員が授業準備や自己研鑽に充てる時間が確保できるよう、基本方針Ⅳ施策2「教員の働き方を改善する」を推進し、教員の業務の縮減・適正化を進めてまいります。

## ◆その他について（4件）

No.	ご意見の概要	市教育委員会の考え方
56	<p>教育への生成AIの利活用の模索と推進及びAIへのアクセス保障(通信環境と通信端末の提供)について、教育や学習向けの活用例と仮説を収集分析し、そのメリットとデメリットを既存のものと比較すべきだと思う。</p> <p>また、教員不足がニュースになる昨今の状況をAIによって改善できると思う。</p>	<p>生成AIの学校現場での利用については、国や都の動向を注視し、活用事例の収集等を行い、町田市としての方針を検討してまいります。</p> <p>しかし、現状の生成AIについては、誤った内容が回答されることも多く、活用には十分注意する必要があると考えております。</p>
57	<p>給食費を無償化にして欲しい。</p>	<p>学校給食費の無償化に当たっては、児童・生徒の公平性の観点から、全国一律の対応が望ましく、必要な制度設計や財源措置を含めて、国の責任において実施すべきものと考えております。現在、国が「子ども未来戦略方針」に基づき、学校給食費無償化の実現に向けた検討を開始していることから、国の動向を注視してまいります。</p>
58	<p>現在の国語の教科書を見ていると、自分の生活のことを自分の文体で文章にするような時間が確保されていないように感じる。「詩集 町田の子」に出てくるような文章を日常的に書き、子どもたちで共有する時間が取れると子どもたちの書く力が育ち豊かになるのではないか。</p>	<p>各学年での国語科の学習を踏まえて、各教科において、書くという視点も大事に学習に取り組んでおります。また、学校行事後の振り返りや日常的な出来事について日記を書く活動などに取り組み、子どもたちの書く力を育てております。</p>
59	<p>「多様性を認める」社会を旨とするのであれば、自然や人との交流の中で外の世界や自分の中にたくさんの多様性を感じて欲しい。</p>	<p>学校では、クラスの子や異年齢の子ども、地域・外部の方々等多様な人達と関わる機会があり、多様な考え方、知見に触れ、自身の視野を広げるとともに、自分自身をより深く理解できる機会を今後も大切にしていきたいと考えております。</p>

※1 STEAM教育…Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・人文社会科学)、



Mathematics(数学)の頭文字をとった教育概念。各教科で学んだ知識や身に付けた技術に関連付けながら、実際の社会の中で起きている問題を主体的に発見し、解決することに取り組んでいく、教科等の横断的な学習。

※2 コミュニティ・スクール…保護者、地域の人などを委員として学校運営や必要な支援に関して協議や承認を行う「学校運営協議会」を設置している学校のこと。

※3 リカレント教育…社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び学び、仕事と学びを繰り返すこと。

※4 カリキュラム・マネジメント…各学校が教育課程(カリキュラム)の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高めること。

※5 キャリア・パスポート…小学校から高校までのキャリア教育に関する活動について、児童生徒が自分の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分自身の変容や成長を自己評価できるように蓄積していく記録(ポートフォリオ)のこと。

※6 イングリッシュ・フェスタ…「えいごのまちだ」事業の一環として、町田市立小・中学校で実施している子どもがALT(外国語指導助手)と英語でコミュニケーションをとりながら、体験活動に取り組み、異文化に触れるイベントのこと。

※7 プリティッシュヒルズ…福島県にある、語学やイギリス文化の学習を目的とした施設。施設内ではゲームやフィールドワークを取り入れた英会話レッスンや、楽しく伝統文化を体験できる英語カルチャーレッスンが開講されている。宿泊施設やレストラン、売店もあり、滞在を通じて外国人スタッフと自然にコミュニケーションをとることもできる。

※8 ALT(外国語指導助手)…Assistant Language Teacher の略。英語の授業で日本人の教員を補助し、ネイティブの英語を教える外国人のこと。

※9 スヌーピーミュージアム…2019年12月に町田市南町田にオープンした「スヌーピー」を題材にした美術館のこと。2020年度から町田市立小学校の5年生が英語に関する意欲を向上し、英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的に校外学習を実施している。

※10 Tokyo Global Gateway…東京都教育委員会と株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY が提供している体験型英語学習施設。江東区青梅と立川市にある。英語を使いたくなる「環境」、「プログラム」、「イングリッシュ・スピーカー」の三位一体で、徹底的に英語でのコミュニケーションを促す。

※11 スクール・サポート・スタッフ…教員の負担軽減を図り、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備するため、授業準備等をサポートする会計年度任用職員のこと。

※12 CAPS・MESE…児童・生徒が、PC上で会社を経営し、価格や広告費など、商品販売に関する要素について話し合いで決定する意思決定シミュレーションプログラム。

※13 日本語指導員…町田市立小・中学校において、日本語指導を必要としている児童生徒に対して日本語指導を行っている有償ボランティア。

※14 学校図書館図書標準…公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準数。

※15 学校司書…専ら学校図書館の職務に従事する学校事務職員。

※16 学校図書指導員…市内小・中学校に設置する学校図書館を利用し、図書教育の充実を図るため、司書教諭の補助者として従事する者。従事内容としては、蔵書管理、図書館の環境整備等がある。

※17 まちとも…子ども達が安心して過ごすことができる居場所をつくるため実施している、放課後の校庭や空き教室等で無料で遊ぶことができる遊び場開放事業のこと。

※18 地域未来塾…大学生や教員OB等、地域住民の協力で、学習習慣の確立や基礎学力の定着のため、放課後などに子どもたちの学習を支援する取組のこと。

※19 ボランティアコーディネーター…地域の方に協力を仰ぎたい授業における人材の調整や、地域のボランティア人材と学校が求める支援活動とをつなぐ等、学校と地域の協働関係の中で教育支援活動の総合調整を担う地域人材のこと。

## 鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について

町田市立図書館では、将来に渡り町田市の図書館サービスを継続していくために、「町田市公共施設再編計画」及び「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に基づき、図書館再編の検討を進めております。

鶴川図書館においては、図書コミュニティ施設の運営団体が設立され、施設改修の日程等が決まりましたので、報告いたします。

## 1 図書コミュニティ施設運営団体の設立について

名 称	一般社団法人つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会
設 立 日	2023年11月21日
設立時社員	鶴川地区協議会、町田市
役 員	理事5名、監事1名 鶴川地域で活動する団体の代表者や鶴川図書館周辺自治会の代表者などで構成。

## 2 図書コミュニティ施設への転換に向けた施設改修について（別紙1）

9月30日及び10月1日に行われた「2023鶴川団地秋祭り」において、新たな施設の利用方法や過ごし方、どのような活動をしたのかなどについて、改修後のレイアウト案の模型をご覧いただきながら意見収集をしました。2日間で延べ103人の方からご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえ、施設改修を実施します。

## 3 施設改修に伴う休館について

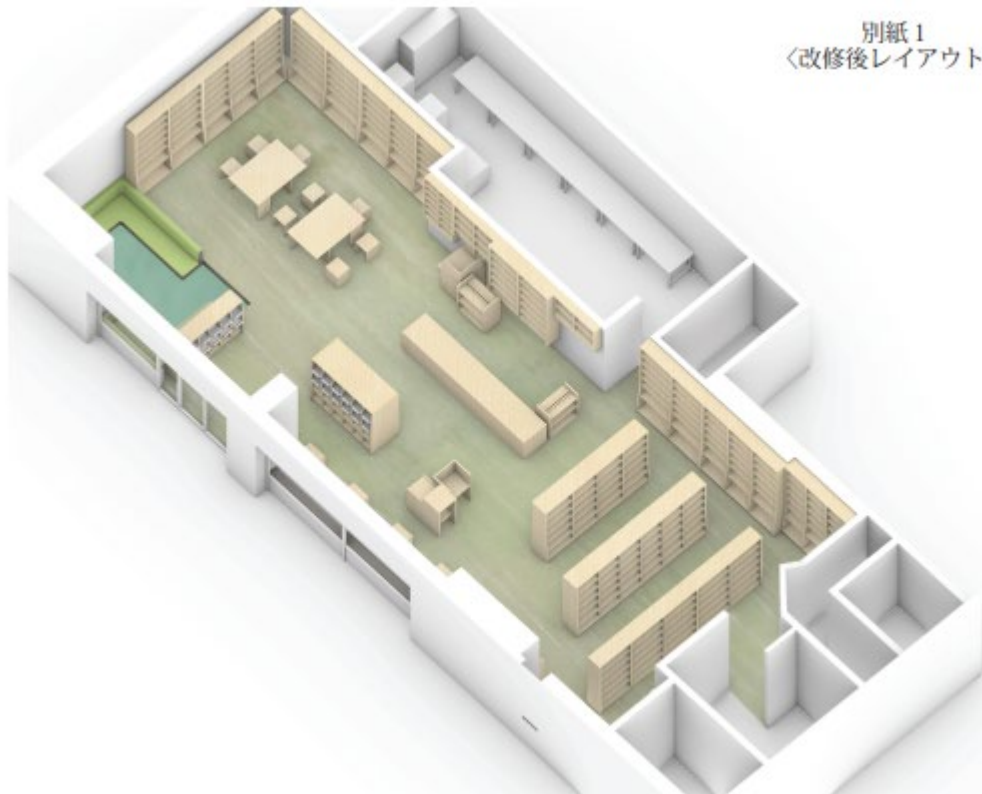
休館期間	2024年2月1日（木）から3月11日（月）
そ の 他	2月6日（火）から3月5日（火）までは、予約本の受け取りができません。（但し、月曜日及び2月8日（木）を除く） <場所> 鶴川図書館おはなしの部屋 （UR鶴川管理サービス事務所となり）

## 4 施設改修後のスケジュール

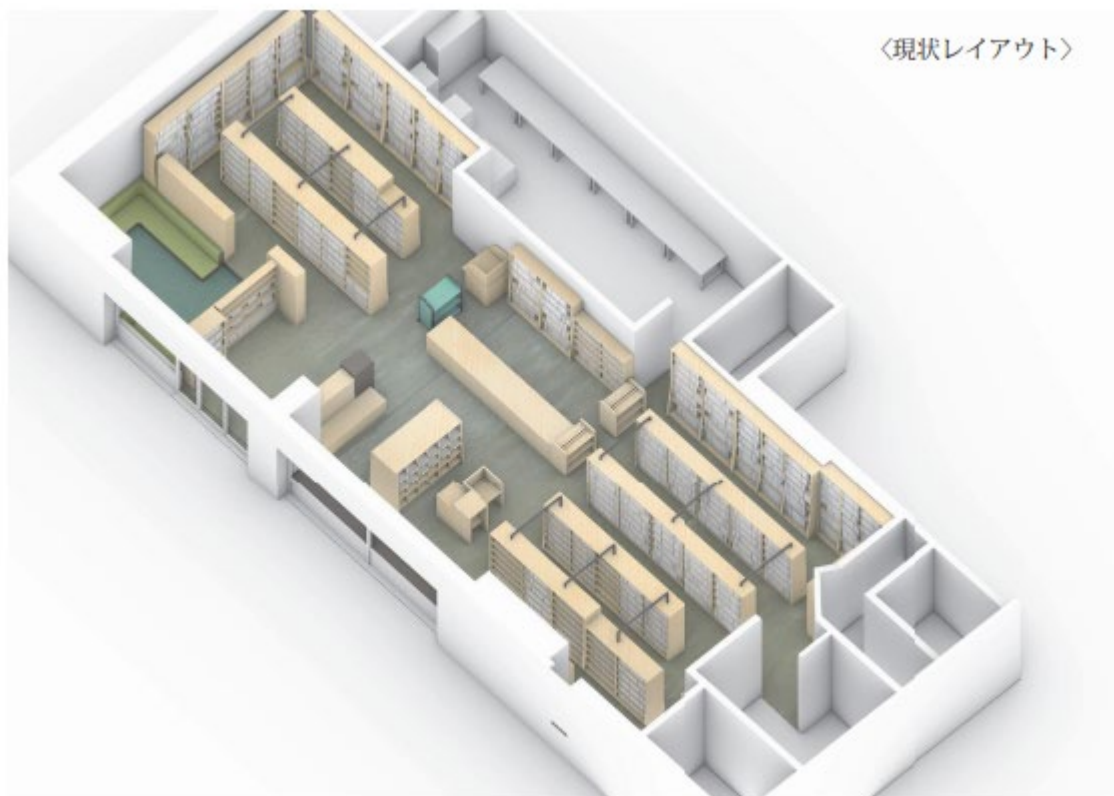
- 2024年4月 運営団体によるコミュニティ機能の運営及び民設民営化に向けた準備の開始
- 2024年9月 町田市立図書館条例の一部改正について議案提出
- 2025年3月末 鶴川図書館の公立図書館としての運営を終了
- 2025年度当初 民設民営化後の図書コミュニティ施設の運営開始

資料4-3

別紙1  
〈改修後レイアウト〉



〈現状レイアウト〉





「#おうちで英語！」実践編

# 子どもと一緒に 英語絵本を読もう！

子どもと一緒に英語絵本を楽しみませんか？

手遊び等と英語絵本の読み聞かせを行います！簡単なレクチャーを行いますので、実際にやさしい英語絵本を子どもと読んでみましょう！！

日時：2024年2月11日（日曜日）

午前10時30分から12時（10時開場）

場所：中央図書館6階ホール

定員：親子12組（先着順）

原則、保護者と子どもでの参加。3名まで申込可。「保護者1名+子ども2名」または「保護者2名+子ども1名」。子どものみの申込不可。

※保育はありませんので、ご注意ください。

対象：子どもの対象年齢は概ね4歳から小学3年生程度

（子どもと一緒に英語絵本を楽しみたい親子、英語絵本の読み聞かせに興味のある保護者 など）

## <講師紹介>

鈴木 祐子氏（呼称は「きっぱ」さん。）

ABC4YOU自由が丘英語教室代表

実践的な英語力の取得を目的とした教室を開校。2009年より小学生から高校生に多聴多読を指導。東大はじめ難関国公立大学の合格者を輩出。オックスフォード大学出版局ワークショップ講師。絵本専門士。NPO多言語多読準会員。



## 申込み方法・期間

■Web受付 町田市イベント申込システム（通称イベシス）  
年中無休24時間受付  
イベントコード（240119B）で検索してください



イベシスQRコード

■電話受付 町田市イベントダイヤル（042-724-5656）  
年中無休 午前7時から午後7時まで

■受付（電話・Web受付）

1月19日（金）正午から2月6日（火）

（Web受付は午後11時59分、電話受付は午後7時）まで

当日資料

23町教生総第421号

2024年1月22日

図書館長

中嶋 真 様

生涯学習総務課長

江波戸 恵子

第7期町田市生涯学習審議会委員の推薦について（依頼）

標記の件につきまして、「町田市生涯学習審議会」の委員を選任するに当たり、貴課が所管している「町田市立図書館協議会」の委員から選出いたしたく、下記のとおりご推薦いただきますようよろしくお願いいたします。

記

- 1 任 期：2024年4月1日から2026年3月31日までの2年間
- 2 推薦人数：1名
- 3 回答方法：別添の推薦書に必要事項を記載のうえ、文書管理システムで生涯学習総務課までご提出ください。
- 4 回答期限：2024年2月28日（水）  
※期日までに選出できない場合は、ご一報ください。

【連絡先】

生涯学習部生涯学習総務課

担当 近藤・川又

内線 5212

当日資料

年 月 日

町田市教育委員会教育長 様

団 体 名 .....

代 表 者 名 .....

代 表 者 住 所 .....

電 話 .....

町田市生涯学習審議会委員の推薦について

このことについて、下記の者を推薦します。

記

住 所

\_\_\_\_\_

ふりがな  
氏 名

\_\_\_\_\_

生年月日

\_\_\_\_\_

職 業

\_\_\_\_\_

電 話

\_\_\_\_\_

メールアドレス

\_\_\_\_\_

2023年度 図書館利用者アンケート (総合満足度抜粋版)

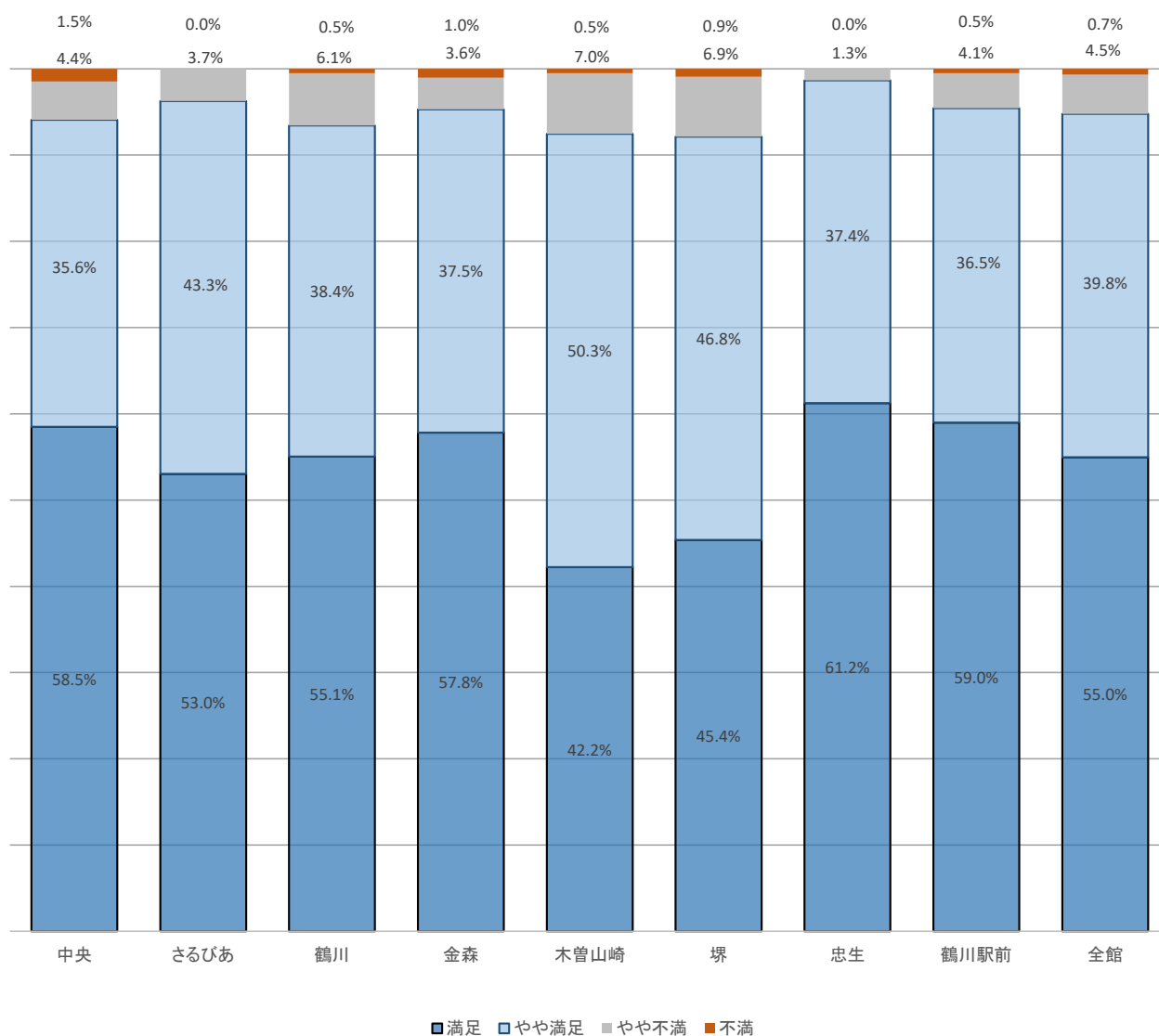
調査期間 2023年12月1日(金)～12月7日(木)  
 ( 鶴川駅前のみ 2023年11月21日(火)～11月25日(土) )

回答件数

中央	さるびあ	鶴川	金森	木曾山崎	堺	忠生	鶴川駅前	全館合計
437件	220件	202件	208件	216件	220件	237件	415件	2155件

V 総合満足度について

図書館サービスについて、総合的にどの程度満足していますか。



※無回答除く